

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	白坂 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者分析およびアパレル企画のプロセスを身につける						
授業の概要	現在のファッションは多種多様化し、自分自身の価値観や感性に基づいて「自分らしさ」をうまく表現できる消費者が増えてきている。このような成熟化した消費者を満足させるためには、その消費者のニーズに対応したアパレル商品の企画・提案が必要となる。 本講義では、消費者のさまざまな生活シーンやシーズン、テイストといったスタイリングの要素を知り、ファッション感性イメージの分類を理解した上で、自分の好みに陥らない客観的なアパレル企画の提案を行う。 また、アパレル商品を消費者に購入してもらうためには、ただ単にアパレル商品を企画するだけでなく、その商品を魅力的にディスプレイしたり、有効的に販売していかなければならない。これに関しては、学外見学で現場の状況を実践的に学ぶこととする。						
到達目標	私たちがちまたで目にするアパレル商品について、その商品の企画の背景、意図、商品化までのプロセスが理解でき、自らアパレル商品の企画・提案ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 成熟化した消費者と顧客満足 第3回 アパレル商品の種類と特徴 第4回 アパレル企業について 第5回 シーン・シーズン・テイストのスタイリング 第6回 ファッション感性イメージ分類について 第7回 ソフィスティケート&エレガンス 第8回 ロマンティック&カントリー 第9回 エスニック&アクティブ 第10回 マニッシュ&モダン 第11回 ターゲット分析とコンセプト設定 第12回 コーディネート企画 第13回 ゲスト・スピーカーによる講義 第14回 オリジナルのアパレル企画 第15回 プレゼンテーションと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：多くのファッション雑誌に目を通し、自分の好みや自分のファッションの系統などを研究する。 授業後学習：理解できなかった内容は、授業後および次回に質問し、欠席したり授業内にできなかった課題は各自進めて提出すること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題70% 授業態度30%						
教科書	適宜資料を配布します						
参考書	文化ファッション大系 ファッション流通講座⑦『コーディネートテクニク演出編』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	井上 裕之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、人体の構造や計測方法の習得、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	アパレル製品と人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより、立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン制作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	人体の構造、計測方法を習得できる。 セミタイトスカートの設計・縫製過程を理解できる。 スカートの完成させるまでの技術を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い・補正（トアル）① 第6回 セミタイトスカートの仮縫い・補正（トアル）② 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 まとめ 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	課題80% レポート20%						
教科書	資料を配布する						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編 文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	白坂 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する						
授業の概要	アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより、立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。 本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	セミタイトスカートの設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 基礎縫いⅡ 第6回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第7回 セミタイトスカートの印つけ（へらorチャコペーパー） 第8回 セミタイトスカートの縫製①伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代の始末 第9回 セミタイトスカートの縫製②後ろ中心を縫う、ファスナーつけ 第10回 基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製③脇縫い、裾のし始末 第12回 セミタイトスカートの縫製④ベルト作り、ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑤カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 まとめ 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題になった箇所は必ず各自で進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	課題60% レポート20% 授業態度20%						
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	白坂 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現方法や素材、デザイン、色彩などの基本的な知識を身につける						
授業の概要	ちまたに溢れているアパレル商品の企画・設計にはアパレルデザインに関する基本的な知識が必要不可欠である。本講義では、まずデザインの基礎・定義を学んだ上で形、色、デザインの知識を身につけ、続いてアパレルデザインに応用発展させる。このようにアパレルデザインを系統的に幅広い視点から学ぶことによって、アパレル商品のデザインについての理解を深める。						
到達目標	アパレル商品の機能性、審美性、表現方法を知り、適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるアパレルデザインを理解できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 商品企画とアパレルデザイン 第3回 ファッションの変遷とその背景 第4回 衣服デザインの基礎 第5回 デザインの基礎 第6回 フォーム 第7回 カラー 第8回 テキスタイル 第9回 着装とデザイン 第10回 流行色の決まり方について 第11回 ファッションのトレンドについて 第12回 ファッションデザイン（オリジナル） 第13回 // 第14回 世界で活躍するファッションデザイナー 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：ファッションだけでなく様々なデザインに目を向ける。 授業後学習：理解できなかった内容は授業後および次回質問し、欠席したり授業内にできなかった課題は各自進めて提出すること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験50% 課題30% 授業態度20%						
教科書	『改定 アパレルデザインの基礎』日本衣料管理協会						
参考書	授業内に紹介します						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本 嘉寛						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	言葉の持つイメージをインテリア空間として構想し、それを他者に表現する手法の基礎を学ぶ。						
授業の概要	インテリアにまつわる基礎的な知識を得た後、ある言葉から連想されるイメージを空間として実現するための手法を学ぶ。図面や空間表現の基礎的な技術を学び、作成したプレゼンテーションボードを用いて発表を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インテリアを構成する要素についての基礎的な知識を持つことができる。 2. 言葉のイメージから空間を構想することができる。 3. 構想した空間を表現することができる。 4. 構想した空間を他者に伝えることができる。 						
授業計画	第1回：授業のガイダンスとインテリアデザイン／コーディネートをめぐる概説 第2回：仕上材の概説（床／壁／天井） 第3回：開口部とその処理の概説（窓／扉、カーテン／ブラインド） 第4回：家具と照明の概説 第5回：建材ショールームの見学 第6回：空間的なイメージを帯びた言葉を集め、そこから各自のテーマを決定する。 第7回：言葉から連想される空間の実例を集め、そのイメージを決定付けている要素を抽出する。 第8回：図面表現の概説と実習 第9回：空間表現の概説と実習 第10回：テーマに沿った仕上材のコーディネート 第11回：テーマに沿った開口部のコーディネート 第12回：テーマに沿った家具照明のコーディネート 第13回：プレゼンテーションボードの作成 第14回：課題の発表・講評 第15回：課題の修正、最終チェック、提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	身の回りに存在する様々なインテリアに目を向けてみましょう（床、壁、天井、窓、扉、家具、照明・・・）。それらが何で出来ているか、どういった意図で選ばれているか考えてみましょう。						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションボード60%、平常点40%						
教科書	プリント配布						
参考書	図解テキスト インテリアデザイン 第1版 第5刷 井上書院 著者 小宮容一 片山勢津子 ベリー史子 加藤力 塚口眞佐子 西山紀子 ISBN 978-4-7530-1587-0 C3052						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	応用調理実習						
担当教員	浅野 恭代						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	調理を通して健康、食環境、食文化を学ぶ。						
授業の概要	食事献立の基本を学び、健康な食事献立が考えられる力を養う。日本料理、西洋料理、中華料理といった調理様式を理解し、それぞれの国の食文化の違いを理解する。調理とともに食べる環境を整え、テーブルセッティング、食卓作法の方法を学ぶ。						
到達目標	調理の基本技術（だしをとる、野菜を切る、魚をさばく等）を習得する。料理に合わせた食環境を整える力を習得する。健康な食事献立を考えるために、食品、調理法についての知識を学ぶ。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 調理の基本</p> <p>第3回 食事のバランス 食事バランスガイド（主食・主菜・副菜）</p> <p>第4回 日本型食生活 一汁三菜</p> <p>第5回 日本の行事食 端午の節句</p> <p>第6回 食事マナー、テーブルマナー</p> <p>第7回 西洋料理（1） 肉料理</p> <p>第8回 西洋料理（2） 魚料理</p> <p>第9回 西洋料理（3） アフタヌーンティ</p> <p>第10回 中華料理（1） 広東料理</p> <p>第11回 中華料理（2） 四川料理</p> <p>第12回 中華料理（3） 点心・烏龍茶</p> <p>第13回 色彩と食欲</p> <p>第14回 松花堂弁当</p> <p>第15回 実技テスト、まとめ</p> <p>第1回の授業で、実習費（10,000円）を徴収する。 行事により順序が変更する場合がある。変更の場合は事前に連絡する。 また、献立内容は種々の条件により変更することがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：事前配布課題やレシピの学習 授業後学習：実習のまとめ、課題・考察の提出						
授業方法	実習（グループ調理）、講義、演習、試験						
評価基準と評価方法	テスト（実技テスト）50% 提出物 20% 実習態度（服装を含む学習態度、班での協力態度、調理方法など指示通りにできたか等）30% 提出期限等時間を守らない場合は、減点対象となる。						
教科書							
参考書	「新版 フードコーディネーター論」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 「あすの健康と調理」三輪里子監修 アイ：ケイ・コーポレーション						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察						
授業の概要	<p>においは人が生活していくうえで身の周りにあふれている。この授業では、香りの心理学的および生理学的メカニズムについて知ることを目的とする。香りの人間に対する作用のなかには、自律神経系、免疫系、認知機能に対する影響といったものが挙げられるが、それらに対する数々の効用について具体的に香りを用いた研究例をまじえ解説する。また、精油の種類や使い方、製法など精油の基本的な事項について、実際に香りを使いながら学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。 2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べることができる。 3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、特徴を言葉で表現できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 香りを使用する目的 3. 嗅覚の仕組み 4. 香りの鎮静覚醒作用 5. 香りとストレス 6. 香りと睡眠 7. 香りと疲労 8. 精油の作用 9. 精油の使い方 10. 精油の種類 11. 香りと免疫 12. 香りと認知 13. 香りと記憶 14. 嗅覚の個人差 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：日常でのにおいを意識し、その感覚を言葉で表現できるようにする。 授業後学習：香りを実際の生活の中でどのように生かすことができるか、毎回の授業の内容を思い出して考える。</p>						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート(20%)、試験(80%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	長尾 夏樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な家電機器の役割や仕組み						
授業の概要	家庭で使用される電気機器の基礎理論と動作原理を理解すると、より安全に、快適に、そして経済的にそれらを利用できるようになります。この講義では、身近な各種家電機器を取り上げ、その構造や動作原理についてできるだけ平易な解説を行い、電気や機械についての理解を深められるようにします。生活家電だけでなく、多様化、高度化の進む情報通信機器やデジタル家電も取り上げます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある家電機器の仕組みがわかるようになる ・適切な製品を選択できるようになる ・機器を安全かつ有効に使用できるようになる 						
授業計画	第1回 授業の概要 第2回 家庭生活と電気機器 第3回 電気・機械の基礎知識 第4回 エネルギー変換、電池 第5回 調理機器 第6回 洗濯乾燥機、掃除機 第7回 冷凍・冷蔵機器 第8回 空調機器 第9回 照明機器 第10回 テレビ、電話、FAX 第11回 通信ネットワーク 第12回 コンピュータ 第13回 デジタルAV機器 第14回 家庭の省エネルギー 第15回 進化する家電機器						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回のテーマに関連する家庭内の機器や設備を実際に見て確認してくるよう、授業の最後に指示します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 60%、提出物 20%、平常点 20%						
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	官能評価演習						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「食」に関する官能評価法, 鑑別法の演習						
授業の概要	「食」に関連した官能評価や食品の識別に関する基礎的な手法について解説し、演習する。実際の食品の品質についての知識として、食品学に関する内容も含む。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な官能評価法について、企画、設計、実施することができる。 ・ 代表的な食品鑑別法について、企画、設計、実施することができる。 ・ 食品の品質に関する知識を列挙することができる。 ・ フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。 						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 食品の官能評価法とは（講義） 第3回 食品官能評価演習1（企画、設計） 第4回 食品官能評価演習2（実施前半） 第5回 食品官能評価演習3（実施後半） 第6回 食品の品質について（講義） 第7回 食品鑑別演習1（酵素的褐変） 第8回 食品鑑別演習2（非酵素的褐変） 第9回 食品鑑別演習3（小麦粉） 第10回 中間チェック（レポート解説） 第11回 食品鑑別演習4（酸度測定） 第12回 食品鑑別演習5（牛乳） 第13回 食品鑑別演習6（品質表示） 第14回 食品鑑別演習発表会 第15回 まとめ * 演習メニューが前後する場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおくこと 授業後：演習実施後は、各回レポートの提出を求める。						
授業方法	実習形式をメインとする。演習時は、授業開始時に講義形式で教科書及びプリントに基づいた説明をおこなう。この説明が演習の成果を左右することになるので集中して聴くことが必要である。演習はグループ単位で行う。						
評価基準と評価方法	レポート50%、授業への取り組み50%						
教科書	「三訂食品の官能評価・鑑別演習」（公社）フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	馬場 公恵						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養学及び応用（ライフステージ）栄養学の基礎						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。基礎栄養学では主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できるようになる。 ・主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられるようになる。 ・食品の機能性について列挙できるようになる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。 						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養、小テスト 第5回 食事と栄養物質(4)：無機質の栄養 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミンの栄養 第7回 エネルギー代謝、小テスト 第8回 食事と健康(1)：食事摂取基準 第9回 食事と健康(2)：健康づくりのための政策、健康とダイエット 第10回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 第11回 ライフステージと栄養(2)：成長期・成人期・高齢期、小テスト 第12回 生活習慣病と栄養(1)：生活習慣病とは 第13回 生活習慣病と栄養(2)：生活習慣病と食事 第14回 免疫と栄養 第15回 期末テスト（予定）、まとめ * 小テストの日程は前後することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%						
教科書	三訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	青谷 実知代																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 ・自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 ・2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲をもつことができる。 																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明 <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 17. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ（仮）：花 田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥 井「生活経営入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>①組</td> <td>②組</td> <td>③組</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> 各教員のテーマ（仮） 青 谷「マーケティング入門」 楠 木「ビジネス入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>④組</td> <td>⑤組</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> 30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて								①組	②組	③組	18～21回	花田	長谷川	奥井	22～25回	奥井	花田	長谷川	26～29回	長谷川	奥井	花田		④組	⑤組	18～23回	青谷	楠木	24～29回	楠木	青谷
	①組	②組	③組																													
18～21回	花田	長谷川	奥井																													
22～25回	奥井	花田	長谷川																													
26～29回	長谷川	奥井	花田																													
	④組	⑤組																														
18～23回	青谷	楠木																														
24～29回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	奥井 一幾																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 ・自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 ・2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲をもつことができる。 																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明 <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 17. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ（仮）：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>①組</td> <td>②組</td> <td>③組</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> 各教員のテーマ（仮）青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>④組</td> <td>⑤組</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> 30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて								①組	②組	③組	18～21回	花田	長谷川	奥井	22～25回	奥井	花田	長谷川	26～29回	長谷川	奥井	花田		④組	⑤組	18～23回	青谷	楠木	24～29回	楠木	青谷
	①組	②組	③組																													
18～21回	花田	長谷川	奥井																													
22～25回	奥井	花田	長谷川																													
26～29回	長谷川	奥井	花田																													
	④組	⑤組																														
18～23回	青谷	楠木																														
24～29回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	楠木 新																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 ・自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 ・2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲をもつことができる。 																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明 <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 17. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ（仮）：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>①組</td> <td>②組</td> <td>③組</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> 各教員のテーマ（仮）青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>④組</td> <td>⑤組</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> 30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて								①組	②組	③組	18～21回	花田	長谷川	奥井	22～25回	奥井	花田	長谷川	26～29回	長谷川	奥井	花田		④組	⑤組	18～23回	青谷	楠木	24～29回	楠木	青谷
	①組	②組	③組																													
18～21回	花田	長谷川	奥井																													
22～25回	奥井	花田	長谷川																													
26～29回	長谷川	奥井	花田																													
	④組	⑤組																														
18～23回	青谷	楠木																														
24～29回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																														
科目名	基礎演習																														
担当教員	長谷川 誠																														
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																								
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。																														
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 ・自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 ・2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲をもつことができる。 																														
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明 <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 17. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ（仮）：花 田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥 井「生活経営入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>①組</td> <td>②組</td> <td>③組</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> 各教員のテーマ（仮） 青 谷「マーケティング入門」 楠 木「ビジネス入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>④組</td> <td>⑤組</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> 30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて							①組	②組	③組	18～21回	花田	長谷川	奥井	22～25回	奥井	花田	長谷川	26～29回	長谷川	奥井	花田		④組	⑤組	18～23回	青谷	楠木	24～29回	楠木	青谷
	①組	②組	③組																												
18～21回	花田	長谷川	奥井																												
22～25回	奥井	花田	長谷川																												
26～29回	長谷川	奥井	花田																												
	④組	⑤組																													
18～23回	青谷	楠木																													
24～29回	楠木	青谷																													
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																														
授業方法	演習																														
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																														

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	花田 美和子																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 ・自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 ・2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲をもつことができる。 																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明 <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 17. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ（仮）：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>①組</td> <td>②組</td> <td>③組</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> 各教員のテーマ（仮）青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>④組</td> <td>⑤組</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> 30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて								①組	②組	③組	18～21回	花田	長谷川	奥井	22～25回	奥井	花田	長谷川	26～29回	長谷川	奥井	花田		④組	⑤組	18～23回	青谷	楠木	24～29回	楠木	青谷
	①組	②組	③組																													
18～21回	花田	長谷川	奥井																													
22～25回	奥井	花田	長谷川																													
26～29回	長谷川	奥井	花田																													
	④組	⑤組																														
18～23回	青谷	楠木																														
24～29回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅰ						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、班分け 2. レポートの書き方(1)－構成－ 3. レポートの書き方(2)－図表の作成－ 4. ミュラーリヤーの錯視(1)－解説－ 5. ミュラーリヤーの錯視(2)－実験の実施－ 6. ミュラーリヤーの錯視(3)－データの整理－ 7. 鏡映描写(1)－解説と実験－ 8. 鏡映描写(2)－データの整理－ 9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－ 10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－ 11. 要求水準(1)－解説と実験－ 12. 要求水準(2)－データの整理－ 13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－ 14. 認知的葛藤(2)－データの整理－ 15. 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとしておく。 授業後学習：1つのテーマが終わったら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを提出する。						
授業方法	実習形式でおこなう。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20%						
教科書							
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方、班分け 2. 状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈 3. YG性格検査(1)－解説－ 4. YG性格検査(2)－受検と評点－ 5. SD法によるイメージの測定(1)－解説と実験－ 6. SD法によるイメージの測定(2)－データの整理－ 7. SD法によるイメージの測定(3)－解析－ 8. 一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験－ 9. 一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理－ 10. 一対比較による好悪の尺度化(3)－解析－ 10. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(1)－解説と評定－ 11. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(2)－整理と解釈－ 12. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(1)－解説と評定－ 13. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(2)－整理と解釈－ 15. 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。 授業後学習：次の実験までに、その回の実験レポートを提出するようになる。						
授業方法	実習形式でおこなう。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20%						
教科書							
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化をとらえつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の一生と家族 2. 青年期の自立と家族 3. 家族の概念と定義 4. 少子化とその原因分析 5. 子どもの発達と親の役割 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— ゲストスピーカー招聘 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 共生社会と福祉（高齢者福祉・児童福祉） 12. 家族とグローバル化 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。地域と家族との関係について、近隣コミュニティにおける家族の役割を調べ報告する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（授業中の小レポート60% 期末試験 40%）						
教科書	よくわかる現代家族【改訂版】神原文子、杉井順子、竹田美知						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活II（神戸論）						
担当教員	江 弘毅						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちとその特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	<p>(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。</p> <p>(2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。</p> <p>(3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか</p> <p>第2回 神戸と開港</p> <p>第3回 外国人居留地の歴史と現在</p> <p>第4回 神戸の外国人とコミュニティー</p> <p>第5回 神戸の近代建築</p> <p>第6回 神戸の洋食～外国料理</p> <p>第7回 神戸の中国料理と南京町</p> <p>第8回 神戸の洋菓子、パン</p> <p>第9回 神戸の観光（ゲスト・スピーカー招聘予定）</p> <p>第10回 神戸の地勢、自然と公園</p> <p>第11回 ファッション都市・神戸</p> <p>第12回 神戸と阪神間モダニズム</p> <p>第13回 阪神淡路大震災と神戸</p> <p>第14回 メディアのなかの神戸</p> <p>第15回 神戸流生活術</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること（1時間）。その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。毎回、レジュメや資料を配布します。講義についてのリアクションペーパーを書いてください。神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
教科書							
参考書	<p>『古地図で見る神戸』 大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035</p> <p>『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254</p> <p>『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー—』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481</p> <p>『神戸の中国料理』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280</p>						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活III（情報社会）						
担当教員	長谷川 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会的に捉えていく						
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や、若者文化におけるSNSの危険性や情報モラルについて考えていく。						
到達目標	○情報社会の諸問題を社会的に捉える力を養う ○情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 情報社会の成立 第3回 情報社会の進展 第4回 インターネットの普及 第5回 情報化とプライバシー 第6回 若者文化と情報－若者にとって「つながる」とは何か－ 第7回 若者とインターネット 第8回 ネットいじめ問題 第9回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性 第10回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性 第11回 情報モラルとは 第12回 情報社会と職業－情報化がもたらす仕事の変化－ 第13回 大卒就職とインターネット 第14回 生涯学習社会とインターネット 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、理解を深めておくこと。						
授業方法	講義を中心に、必要に応じてディスカッションを行う						
評価基準と評価方法	定期試験 70% レポート 30%						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅳ（共生社会）						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「共生」「多文化」「格差」をキーワードに社会的諸問題について考える						
授業の概要	本講義は、共生社会のあり方を理解することを目的とする。共生社会とは、男女、世代、地域、民族など、さまざまな生活習慣や文化を持つ集団に属する人々が、互いの違いを認め対等な関係を築く社会である。21世紀は、グローバル化が加速し、多様な資源が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に、人々が、共に尊重し合いながら、生活するためにはどのようなことが必要であるか考える。さらに、具体的な事例を通して、自らの価値観や行動を振り返ることで、共生社会を生きる生活者に必要な基礎的教養および態度を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」「多文化」「格差」をめぐる諸問題について、自らの視点から考えを述べることができる。 ・これらの問題に対する専門用語について理解ができる。 ・各種学習活動について、積極的な姿勢で取り組むことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態と個人発表日程決め） 第2回 あいさつと多文化 第3回 お祭り・労働から考える多文化 第4回 環境問題と多文化 第5回 都市化・過疎化と共生 第6回 都市化・過疎化に対する政策 第7回 動物との共生（伴侶動物としてのペット） 第8回 動物との共生（生命としてのペット） 第9回 日本の文化を客観視する（ゲストスピーカーによる講演） 第10回 外国人との共生（過去と現状を中心に） 第11回 外国人との共生（未来への展望を中心に） 第12回 身近な家族との共生（パートナーを中心に） 第13回 子どもとの共生 第14回 万人との共生（ユニバーサルデザインを中心に） 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：個人発表レポートは、各自で責任をもって必ず発表すること。詳細は、第1回目の講義で案内する。 授業後：講義の資料は、毎回松蔭manabaで公開するので、適宜チェックすること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	個人発表レポート(40%)、終講課題(20%)、授業のワークシート記入及び受講態度などの平常点(40%)を総合的にみて評価する						
教科書	必要に応じて資料を配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活V（都市文化）						
担当教員	江 弘毅						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活、都市文化のなかのさまざまな「情報」の様相について学ぶ。						
授業の概要	この授業では、都市のなかの生活文化を扱う。現代のさまざまな情報文化は、都市という場で人間の社会生活と関わり合いながら、都市の生活文化となる。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に、日々の生活の一部でもある。そのような情報と生活の接する場としての都市に生成する「都市文化」の諸相を、家族、地域、消費、余暇、教育など、さまざまな生活の場面のなかに読み解きながら、情報化された現代の都市における生活文化を考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 都市情報のリテラシー（情報を見極め、良質な情報を使いこなすこと）を身につける。 (2) 情報を軸にした過酷な消費社会のなか、「自分らしい」有意義な社会生活を送ることが出来る。 (3) 都会のなかで自分のコミュニティを見つけ、創出することができる、高いコミュニケーション能力の獲得。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 家族の解体と消費社会 第3回 情報の中にある都会 第4回 都会、都市空間とメディアの変貌 第5回 「流れる」情報と「結びつける」情報 第6回 都市情報と消費欲望 第7回 メディアと消費者 第8回 差異化と趣味、ライフスタイル 第9回 文化資本と階層 第10回 インターネットとメディア 第11回 街場のコミュニケーション 第12回 都会のなかの拠点と居場所 第13回 都市生活とインターネット 第14回 「保育園落ちた日本死ね」の衝撃 第15回 課題提出と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書に基づいた講義とその都度の質問。 授業内容に応じたレジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。						
授業方法	教科書に基づいた講義を行い、その都度リアクションペーパーを書いてください。 毎回、レジュメや資料を配布します。 試論（1200字程度）のための課題を出します。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。課題（1200字程度の試論）40%、各回提出のリアクションペーパー40%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
教科書	プリントで行います。						
参考書	『街場のメディア論』 内田樹著、光文社新書 ISBN: 9784334035778 『寝ながら学べる構造主義』内田樹、文春新書 ISBN: 4166602519 『差異と欲望』石井洋二郎著、藤原書店ISBN: 4938661829						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						

参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	前田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識：社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力：資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プレテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。また調査票作成後は、プレテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						
参考書	<p>大谷信介（2005）『社会調査へのアプローチ（第2版）』ミネルヴァ書房。</p> <p>嶋崎尚子（2008）『社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール』学文社。</p> <p>西野理子（2008）『社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール』学文社。</p> <p>轟亮・杉野勇（2013）『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版』法律文化社。</p>						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	前田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識：社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力：資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						
参考書	<p>大谷信介（2005）『社会調査へのアプローチ（第2版）』ミネルヴァ書房。</p> <p>嶋崎尚子（2008）『社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール』学文社。</p> <p>西野理子（2008）『社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール』学文社。</p> <p>轟亮・杉野勇（2013）『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版』法律文化社。</p>						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析、グランデッド・セオリー・アプローチなどの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、問題設定や仮説にもとづき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ : 量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ : さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析(1)～文字・活字データを分析しよう～ : 新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析(2)～文字・活字データを分析しよう～ : 分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析(3)～文字・活字データを分析しよう～ : 整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析(4)～文字・活字データを分析しよう～ : データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析(1)～音声データを分析しよう～ : 聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析(2)～音声データを分析しよう～ : 聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析(3)～音声データを分析しよう～ : トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析(4)～音声データを分析しよう～ : データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析(1)～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。 問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析(2)～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析(3)～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析(4)～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション : 報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>前の学習：授業課題の準備を行う。</p> <p>事後の学習：授業課題の再検討を行う。また、授業時間内で完了しなかった作業については翌週までに完了させておく。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析、グランデッド・セオリー・アプローチなどの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、問題設定や仮説にもとづき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析（1）～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析（2）～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析（3）～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析（4）～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析（1）～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析（2）～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析（3）～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析（4）～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析（1）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。 問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析（2）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析（3）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析（4）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>前の学習：授業課題の準備を行う。</p> <p>事後の学習：授業課題の再検討を行う。また、授業時間内で完了しなかった作業については翌週までに完了させておく。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査論						
担当教員	佐々木 洋子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査が出来るようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から、現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
授業の概要	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。国勢調査や官公庁統計、世論調査、マーケティングリサーチなどの実例を基に、社会調査が我々の社会でどのように行われ、またその結果がどのように活用されているのかということを理解する。次に、社会調査史を振り返り、これまでに行われてきた調査の目的や種類などを検討し、これまでに生じてきた方法論的問題や倫理的問題を紹介する。それを踏まえて最終的には、実際に調査を行う際のデータ収集方法から分析までの諸過程に関する基礎的な知識と技術を修得させる。						
到達目標	社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査ができる。また、公表された社会調査結果を読み解くことができる。						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集 定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別（学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査） 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別（クロスセクションサーベイ・継続調査・パネルサーベイ） 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別（地域調査・全国調査・国際比較調査） 第12回 量的調査と質的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義中に紹介する社会調査およびテレビ、新聞、インターネットなどで見かける社会調査について調べること。						
授業方法	講義形式で行う。また、一部グループワークを行うことがある。						
評価基準と評価方法	授業内課題（30%） 期末テスト（70%）						
教科書	指定しない。						
参考書	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2013『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房 9784623066544 轟亮・杉野勇編, 2013『入門・社会調査法〔第2版〕——2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 9784589034892 その他、随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品衛生学						
担当教員	川窪 淳子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	食品衛生の基礎						
授業の概要	食品の品質を損なうことの最大の原因が、微生物といっても過言ではない。安全性についていえば、食中毒病因物質の85%以上が細菌である。食品の安全性を確立するには、微生物の制御が大きな割合を占めていると言える。本講義では、前半、微生物について、後半、食品をめぐる環境及び安全性の確立について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の特性を挙げることができる。 ・食品の腐敗・変敗の機構を述べるができる ・代表的な食品の腐敗・変敗の防止法を説明できる。 ・食品をめぐる環境について列挙し説明できる。 ・食品の安全流通と安全管理の方法を挙げることができる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。 						
授業計画	<p>第1回 概論 食品衛生学とは 第2回 食品の腐敗・変敗とその防止① 第3回 食品の腐敗・変敗とその防止② 第4回 小テスト1、食中毒 微生物性食中毒① 第5回 小テスト1解説、食中毒 微生物性食中毒② 第6回 自然毒性食中毒 化学性食中毒 第7回 その他の食中毒、小テスト2 第8回 小テスト2解説、食品の安全性の確保、家庭における食品の安全保持 第9回 環境汚染と食品 第10回 器具および容器包装、小テスト3 第11回 小テスト3解説、水の衛生 第12回 食品の安全流通と表示（食品添加物） 第13回 食品の安全流通と表示（輸入食品、遺伝子組み換え食品、アレルギーなど） 第14回 食品の安全管理 第15回 まとめ、期末テスト</p> <p>*小テスト、期末テストの日程は変更することがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況(10%)、期末試験(50%) 小テスト(40%)で評価する。						
教科書	<p>三訂 食品の安全性 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他、適宜プリントを配布する。</p>						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学実験						
担当教員	川窪 淳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	加工食品の製造と理解						
授業の概要	加工食品は、食品素材の保存あるいは栄養性や嗜好性の改善などを目的として作られてきたものであるが、最近の加工技術の進歩には、目覚ましいものがある。本実習では、実際の加工操作を通して、原材料の種類や量などを実感し、それぞれの工程を具体的に把握する。また、実際に加工したものと市販品との違いなどから、現在の加工技術の進歩や食品添加物の現状などについて考える。以上のことを実践するために、穀類、豆類、イモ類、果実・野菜類、畜産物などの加工品について、それぞれ例をあげ実習・実験を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・加工食品を実際に製造することにより、製造方法を述べることができるようになる。 ・製造した加工食品の特徴を述べるようになる。 ・実験で取り上げた加工食品について、市販のものに使用されている可能性のある食品添加物を挙げ説明することができるようになる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問が解けるようになる。 						
授業計画	第1回 実習における諸注意 実習の各内容について 第2回 豆類の加工 味噌の仕込み、きな粉 第3回 味噌などの発酵食品の顕微鏡観察 野菜・果実の加工 ジャムの実験計画 第4回 穀類の加工 団子、餅など 第5回 野菜・果実の加工 ジャム 瓶詰め、缶詰の実際 第6回 穀類の加工 パン 乳製品の加工 バター 卵類の加工 マヨネーズ 第7回 穀類の加工 グルテンの分離と麩 第8回 穀類の加工 うどん 第9回 野菜類の加工 漬物（ピクルス） キャラメル 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ くん煙 第11回 肉類の加工 ポークソーセージ 第12回 イモ類の加工 コンニャク 第13回 乳類の加工 アイスクリーム、チーズ 第14回 豆類の加工 豆腐 第15回 豆類の加工 味噌 実習のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：課題プリント作成 授業後：実習実施後は、各回レポートの提出を求める。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み30%、レポート70% により評価する。						
教科書	食品加工学実験書 著 森 孝夫編著(化学同人) その他、適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	織田 小枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の科学的な性質を総合的に理解する。						
授業の概要	食品がいかに栄養豊富であっても、食べられなくては役に立たない。したがって、食べ物は「美味しさ」が重要な要素といえる。「美味しさ」は単に味だけの問題でなく、色や香り、そして触覚（手触り歯触り等）が重要な因子である。さらには食環境も含めて、脳が総合的に判断することである。本講では最初に食品の成分と特徴および「美味しさ」に関係する因子とその重要性、次いで食べ物の原料である食品の二次機能、即ち色・味・香りについて主に化学的側面から論じる。そして触覚に関係する物性についても述べる。						
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、食品の科学的な特徴が説明できる。						
授業計画	第1回 授業概要の説明、食品の機能と栄養 第2回 食品の成分と特徴：炭水化物 第3回 食品の成分と特徴：たんぱく質、脂質 第4回 食品の成分と特徴：ビタミン、ミネラル、水分 第5回 植物性食品①（穀類） 小テスト① 第6回 植物性食品②（いも類・豆類） 第7回 植物性食品③（野菜類・果物類・きのこ類） 第8回 動物性食品①（食肉類・魚介類）小テスト② 第9回 動物性食品②（乳類・卵類） 第10回 油脂、調味料、香辛料 小テスト③ 第11回 嗜好飲料、微生物利用食品 第12回 食品成分の反応と物性 食品の二次機能（色・味・香・テクスチャー） 第13回 人間と食品①（食文化と食生活と健康）小テスト④ 第14回 人間と食品②（食料と環境問題） 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60%、課題・レポート40%として評価する。						
教科書	「食べ物と健康 食品学」大石祐一・服部一夫編、光生館、2015年、ISBN=978-4-332-04054-5						
参考書	「オールガイド食品成分表2017」実教出版編集部編、実教出版、2016年、ISBN=978-4-407-34075-4						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品の流通論						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	食料（食品）の生産・流通・消費までの流れを具体的かつ総合的に把握することを目的とする。（フードスペシャリスト試験科目）						
授業の概要	情報・技術の発達によりフードシステムが変化している。その要因は、所得の上昇や家族生活の変化、供給側の対応などが考えられる。 本講義では、食生活の外部化に依存している家族の食生活の変化を捉えながら、提供側である小売業・卸売業の実態と変化、さらに生鮮三品や米・小麦・加工食品など様々な食材や食品分野をケースに取り上げながら、その流通と消費実態を考察する。そして、フードマーケティングの視点から今日の食料（食品）問題と流通のシステムの変化について考えていく。						
到達目標	①生産現場の仕組みを理解し、特徴を説明することができる。 ②生産されたモノが消費者に渡るまでの流通プロセスを理解し、現代の流通の課題について自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに、流通の仕組みについて批判的に捉える事が出来る。 ④食育や環境問題についての実践的な行動を目指すことができる。						
授業計画	第1回目 食市場の変化—消費者の変化と食生活— 第2回目 食品流通の役割と社会的使命 第3回目 食品流通と食品市場① —食品小売業とスーパーマーケット— 第4回目 食品流通と食品市場② —外食産業とコンビニエンスストア— 第5回目 PBとNBとは何か 第6回目 食品流通と食品市場③ —卸売市場— 第7回目 食品流通と食品市場④ —食品卸売市場— 第8回目 食品流通と食品市場⑤ —生協の共同購入— 第9回目 主要食品の流通—生鮮三品—（ゲストスピーカーの予定） 第10回目 主要食品の流通—米・小麦・乳飲料・大豆の流通— 第11回目 主要食品の流通—漬物・惣菜・食用油脂・菓子の流通— 第12回目 加工食品の流通と消費①（学外実習） 第13回目 清涼飲料・輸入食品の流通と消費②（学外実習） 第14回目 フードマーケティングと食料消費の課題 第15回目 消費スタイルと流通技術・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	① スーパーや百貨店をはじめコンビニなどがどのような食品を扱い、管理しているのか現場を観察しながら現状を理解する。 ② 新聞を必ず読むこと（特に食品問題）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験50%、レポート（2回）30%、発表20%						
教科書	日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』建帛社、2016年。						
参考書	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、その他授業中に随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	色彩学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。						
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。						
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる。 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる。 色と光の関係について科学的に説明することができる、 生活と色に関する諸問題について考察することができる。						
授業計画	第1回：色の性質、色と心理 第2回：色を表し、伝える方法（色の表示方法とその特徴） 第3回：カラーオーダーシステム（マンセルシステム） 第4回：カラーオーダーシステム（CGIC） 第5回：カラーオーダーシステム（NCS、PCCS） 第6回：色彩調和の考え方 第7回：これまでのまとめと中間試験配色 第8回：配色と色彩調和 第9回：光から生まれる色 第10回：色が見える仕組み 第11回：色の測定 第12回：混色と色再現 第13回：まとめと期末試験 第14回：学外研修事前学習 第15回 学外研修、小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前にテキストを読んでおくこと。						
授業方法	講義、一部演習を含む。学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（40-60%）、試験（40-60%）試験は中間と期末の2回実施する。						
教科書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学I（衣）						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目標とする。具体的に扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服と社会とを関係づけることができる。 ・被服のなりたちについて説明することができる。 ・被服と人の心身とを関係づけることができる。 						
授業計画	第1回 自分と被服との関わりを振り返る 第2回 被服の機能と着用目的 第3回 被服の起源 第4回 被服の歴史と文化 第5回 被服の構成 第6回 被服の素材 第7回 被服の染色加工 第8回 被服の色とデザイン 第9回 被服が人体に及ぼす影響 第10回 高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション 第11回 被服の管理と洗濯 第12回 被服の取扱いと表示 第13回 被服の廃棄とリサイクル 第14回 被服と現代社会の諸問題 第15回 未来の衣生活について考える、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題を出すので積極的に取り組むこと。						
授業方法	講義、DVD、演習						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40%、試験：60%						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学II（食）						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	「食」は生きていくための基本的な行いで、食品をもとにそれをいかに食べるかということでこれまでの人の長い歴史の中で食文化が形成されてきた。特に、健康と食生活は密接な関係し、生涯健康な生活を送るということの大切さが言われる時代である。この授業は、食生活と健康づくりの観点から、栄養、調理、食文化、ライフサイクルと食生活、機能的成分、食の安全、食環境について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養についての小テスト1の問題に回答できるようになる。 ・食生活、調理、食文化についての小テスト2の問題に回答できるようになる。 ・食生活と健康についての小テスト3の問題に回答できるようになる。 						
授業計画	第1回 食とは、概要解説 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 小テスト1 第6回 小テスト1解説、食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬）、小テスト2 第9回 小テスト2解説、ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境、小テスト3 第14回 小テスト3解説、食育 第15回 まとめ、期末テスト * テストの日程は前後することがある。 * 教科書改訂により内容が変動する可能性がある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容について予習、復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況10%、小テスト40%、期末テスト50%						
教科書	「食生活と健康づくり」加藤秀夫・三好康之・鈴木 公・泉公美子編 化学同人 適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学III（住）						
担当教員	平田 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得と現代の住まいに関する課題の理解						
授業の概要	<p>私たちが毎日暮らしている住居に関する入門科目として、住居の基本概要、および現代の住まいに関する重要事項である高齢者居住、子どもの生活空間、住まいの再生、超高層住宅などを理解する。</p> <p>現代日本の都市生活において、多くの人々が住まいの狭小性、老朽化、設備の不備、バリアあるいは周辺環境などでの不満や不安感を抱いている。また、先の阪神大震災が示したように、住まいの問題は多様で山積している。このような住まいに関して、基礎的知識や意味・重要性を概説し理解を深める。内容は、住まいとはなにか、その歴史と現代住宅の多様性、家族の変容、高齢化、環境共生、あるいは衣や食なども視野に入れながら、住まいの実態・今後のあり方について、最近のトピックスを交えながら講義を進める。</p>						
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題などの基礎項目について、自分の言葉で語れるようになること						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、すまいの色々</p> <p>第2回 日本の住まいの特徴</p> <p>第3回 住居の歴史（古代～中世まで）</p> <p>第4回 住居の歴史（近世）</p> <p>第5回 住居の歴史（近代）</p> <p>第6回 間取りの特徴</p> <p>第7回 間取りの制作（自宅の間取り図作成）＋小テスト1</p> <p>第8回 高齢者の生活空間</p> <p>第9回 子どもの生活空間</p> <p>第10回 戸建て住宅の問題</p> <p>第11回 集合住宅の問題</p> <p>第12回 高層居住の問題</p> <p>第13回 公的賃貸住宅の再生</p> <p>第14回 マンションの大規模修繕と再生</p> <p>第15回 学生からの自宅再生提案＋小テスト2</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：新聞やテレビで報道されている住宅やまちづくりに関するニュースに注意を払い、興味を持った記事についてはピックアップをしておくこと。（目安とする学習時間：30分～1時間）</p> <p>授業後学習：配布されたプリントをよく読み、授業内容の重要事項を確認しておくこと。（目安とする学習時間：30分～1時間）</p>						
授業方法	講義を中心とするが、課題について受講生から発表をしてもらう機会をもうける。						
評価基準と評価方法	平常点（30%）、小テスト（20%×2回）、レポート（30%）						
教科書	特になし						
参考書	湯川聡子・井上洋子著、「住居学入門」、学芸出版社、ISBN4-7615-2237-2						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学Ⅳ（ヒト）						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達段階をととしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。						
授業の概要	発達段階をととした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子供へ受け継がれる形質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心理的発達、成人し結婚する際の心理的課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、のように発達段階をととして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。 2. 発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。 3. 遺伝、結婚、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の紹介 2. 遺伝と両親 3. 遺伝と行動 4. 遺伝と環境 5. 脳の発達 6. 脳と神経系 7. 感覚の発達 8. 認知の発達 9. 脳の発達とストレス 10. 性差 11. 共感 12. 意欲、動機づけ 13. 幸福感 14. 幸福感と結婚 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回講義のテーマに関して自分の身の回りにある疑問を言語化する。						
授業方法	講義形式で授業を実施する。教室内でできる簡単な実験や演習も含まれる。						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)、試験(60%)						
教科書	プリントを適宜用いる。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる 						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：自分の身近な生活環境について普段から関心をもつこと。 授業後：授業で学んだ内容を復習する手書きのノートを作成すること。その際に理解不足の点を補いながらまとめるように心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(60%)、ワークシート記入状況、受講マナーなど(40%)により総合的に評価する。						
教科書	授業毎に資料を配布する。						
参考書	日本家政学会家政教育部会編. 家族生活の支援-理論と実践-. 2014. 建帛社. (ISBN: 978-4-7679-6518-5). ¥2,200(税別). 各自高等学校で使用していた家庭科の教科書(及び資料集).						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動I（衣行動）						
担当教員	牛田 好美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
授業の概要	人が被服を着用することには、身体保護や生命維持、健康増進などの目的がありますが、さらに、社会的、心理的な目的もあります。たとえば、被服によって社会的地位を示したり、変身願望を満たしたり、外見的魅力を高めたり、周囲へ同調したりすることです。この授業では、こうした社会的・心理的效果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の社会的・心理的機能を理解することができる。 ・日常生活をより良くするために、被服の社会的・心理的效果を考え、被服に関する行動を行うことができる。 						
授業計画	第1回 被服への社会心理学的アプローチ 第2回 被服と自己意識（1）ボディ・イメージとは 第3回 被服と自己意識（2）社会で形成されるボディ・イメージ 第4回 被服と対人認知（1）印象形成 第5回 被服と対人認知（2）自己管理、自己呈示、役割理論 第6回 被服と非言語的コミュニケーション 第7回 被服と対人行動 第8回 被服と集団行動 第9回 被服とジェンダー 第10回 流行の普及と採用 第11回 個人発表（1） 第12回 個人発表（2） 第13回 個人発表（3） 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。						
授業方法	主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表もおこないます。必要に応じて資料を配布します。						
評価基準と評価方法	授業参加度（30%）、授業中の発表（20%）、レポート（20%）、試験（30%）により総合的に評価します。						
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ8 高木修（監修） 被服行動の社会心理学 神山進（編）北大路書房						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動II（食行動）						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。						
到達目標	1. 各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べることができる。						
授業計画	1. 授業の概要 2. 離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク－ 3. 離乳期までの食行動(2)－母乳のでる仕組み－ 4. 離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面－ 5. 幼児期の食行動(1)－味覚の発達－ 6. 幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達－ 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－ 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－ 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－ 10. 児童期の食行動(1)－特徴と問題点－ 11. 児童期の食行動(2)－食行動と身体の状態－ 12. 児童期の食行動(3)－食卓の絵からの考察－ 13. 青年期の食行動(1)－思春期の食に関わる心と体の病気－ 14. 青年期の食行動(2)－摂食障害－ 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習： 次回の授業の内容に関係する疑問を言語化する。 授業後学習： 実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。						
授業方法	主に講義形式。演習も実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)、試験(60%)、授業態度(10%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「人間行動学講座2 たべる－食行動の心理学－」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円 「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円 「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円 「子どもと家族とまわりの世界(上)赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円 「知っていますか 子どもたちの食卓 一食生活からからだの心が見える」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動III（住行動）						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「人」と「住まい」の関わりについて考える						
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な住環境を観察し、問題点を発見することができる。 ・身近な住環境に関する専門用語を説明できる。 ・現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べるができる 						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態の確認と松蔭manabaへのアクセス） 第2回 身近な住環境への着眼 第3回 身近な住行動に関するグループワーク 第4回 身近な住行動に関するグループ発表 第5回 情報と住行動（一人暮らしに必要な情報） 第6回 情報と住行動（生活コストと情報） 第7回 間取りとは 第8回 間取りの工夫をしてみよう 第9回 インテリアと嗜好（素材収集） 第10回 住まいと将来設計（ゲストスピーカーによる講演） 第11回 インテリアと住行動（イメージマップと印象） 第12回 災害と住行動（耐震構造と実験） 第13回 家庭内における事故と対策 第14回 様々な住宅を評価しよう 第15回 終講課題及び質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：講義計画に記したキーワードについて自分なりに予習する。 授業後：講義内容について、疑問点を整理し自ら調べる。残った疑問点については次回に質問する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	終講課題(60%)、授業の参加状況・ワークシート記入状況(40%)などを含め総合的に評価する。						
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。						
参考書	住まい15章研究会. 「住まい15章 改訂版」. 学術図書. 2008. 第12刷. (ISBN: 4-87361-812-6). ¥1,900(税別)						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動Ⅳ（消費行動）						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちはなぜ買い物をするのか						
授業の概要	現代社会は大衆消費社会であり、何をかうか選択することが、生活の中で大きな位置を占めている。買い物が生活の中心であるからこそ、なぜ買い物するのか客観的に考える力を持たなければならない。この授業の目的の一つは、欲望や欲求とは何であるのか心理学を中心に学び、どのような欲求に基づいて買い物をするのかを考えることである。二つ目は、心理学、行動経済学の研究成果から人間が買い物する時に示す心理・行動傾向を知ることである。そして、過剰な消費社会における欲求のコントロールについても考える。						
到達目標	買い物の際に人が示す認知・行動傾向の基本を説明できるようになる。 なぜ私たちが買い物をするのか心理面から分析できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに一買い物の無い生活 2. 大衆消費社会の成立 3. なぜ万引きをするのか—欲求と動機を考える 4. 欲求とは何か 1：基本的欲求 5. 欲求とは何か 2：内発的動機と親和欲求 6. 欲求とは何か 3：達成動機と自己実現動機 7. 欲求の模倣 8. 欲求のコントロール 1：買い物依存の心理 9. 欲求のコントロール 2：大衆消費社会と欲求 10. 商品選択の心理：選択の負担 11. 価格の相対性 12. 価格の効果 13. 損して得取る難しさ 14. 時間の影響 15. 商品選択の方略 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容をレポートに結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50%とレポート（中間・期末）50%						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「消費の心理」						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動V（健康心理学）						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送ることに関わりのある心理学						
授業の概要	日常生活や人生においてこころを健康に保てるよう、各領域での問題を取りあげる。具体的には、こころを心理学的にどのようなとらえるか、性格を測定できるのか、思春期、青年期、成人期、高齢期における心理学的課題、日常で起こるヒューマンエラーなどについて考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの測定法、性格の分類や問題、ライフサイクルにおける発達課題、心理的エラーについての基本概念を説明できる。 2. 図表からわかることを文章で表現することができる。 3. パーソナリティ、年代ごとの発達課題、心理的エラーの特徴や問題点について自分の考えを述べるができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. こころは測定できるか 3. 性格の検査 4. 疾病とパーソナリティ 5. こころの発達 6. こころの問題 7. 思春期のこころの健康 8. 青年期のこころの健康 9. 成人期と高齢期のこころの健康 10. 注意の錯覚(1)―日常の例― 11. 注意の錯覚(2)―事故の例― 12. 記憶の錯覚(1)―記憶のすりかえ― 13. 記憶の錯覚(2)―目撃者の証言― 14. 原因の錯覚 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：次回の授業の内容に関係する疑問を言語化する。</p> <p>授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。</p>						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	授業態度(10%)、小レポート、(30%)、試験(60%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動VI（社会）						
担当教員	江 弘毅						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	若者にとって過酷になる現在進行形の社会で、「成熟した大人の市民」として生活するための視座を、人文科学の「知性」から求める。						
授業の概要	現代の若者をとりまく具体的な社会的諸問題を「身近な社会の問題」や「身の回りの問い」から抽出するとともに、その構造分析をおこなうとともに、哲学・現代思想・社会学・倫理学・宗教学など、幅広い人文科学の基礎知識を身につける。						
到達目標	(1) 現代の若者を取り巻く社会的諸問題について、自分の考えを自分の言葉で述べ、批評することができる。 (2) 日常生活行動のなかに「書物を講読する」習慣が身につく、社会的諸問題に「知性」で対処することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 言語とコミュニケーション 第3回 家族、親族の基本構造を知る 第4回 儀礼と贈与 第5回 格差社会、少子化問題 第6回 自分さがしとミスマッチ 第7回 傷つきやすさとホスピタリティ 第8回 情報の階層化と情報弱者 第9回 生き延びるためのリテラシー 第10回 メッセージとメタ・メッセージ 第11回 人に聞いてもらおう、読んでもらうこと 第12回 消費社会と家族の解体 第13回 ネットウヨ、ヘイト・スピーチの罠 第14回 反知性主義とポピュリズム 第15回 まとめ。自分で問いをたてること						
授業外における学習（準備学習の内容）	すぐれた現代批評や試論（エッセイ、コラム）、とりわけ内田樹、小田嶋隆、鷲田清一の著作を読むこと（1時間）。 毎回配布されたテキストを読み返し、関連する文章を読むこと（1時間）。						
授業方法	毎回、最近書かれた書籍やネットからのテキストのプリントを配布します。 テキスト講読後にグループに分かれ、ディスカッションのうえ、テキストについて講評して下さい。						
評価基準と評価方法	試験は実施しない。毎回のテキスト講評60%、授業中の発表、発言などのコミュニケーションと態度40%。						
教科書							
参考書	『こんな日本でよかったね 構造主義的日本論』内田樹著、文春文庫 ISBN:9784167773076 『ポエムに万歳!』小田嶋隆著、新潮社 ISBN:9784103349518 『「聴く」ことの手帳 臨床哲学試論』鷲田清一著、ちくま学芸文庫 ISBN:9784480096685						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。 2. 図表からわかることを文章で表現できる。 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 感覚の心理学的意味 3. 行動と感情 4. 行動と環境 5. 知覚(1)-触覚- 6. 知覚(2)-視覚- 7. 対人魅力 8. 発達 9. 人格 10. 認知 11. 感情 12. 人間工学 13. 医療分野と心理学 14. 免疫と心理学 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習： 次回の授業の内容に関係する疑問を言語化する。</p> <p>授業後学習： 実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。</p>						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、小レポート(20%)、試験(60%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムI（ライフライン）						
担当教員	石原 凌河						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活を支えるシステム（＝都市・地域）の理解とその再生手法の検討						
授業の概要	<p>人口減少、少子高齢化等により私たちの生活を支えるシステムである都市・地域のパラダイム転換が求められている。住空間の拡大やライフラインの整備といった人口増加や成長拡大を前提としたハード中心の都市・地域のあり方から、縮小も視野に入れた、ハードだけでなくコミュニティやネットワーク等のソフトの再生も含めた持続可能な都市・地域へと改編することが喫緊の課題である。</p> <p>本講義では、都市・地域の魅力や課題および歴史の変遷をたどりながら、都市・地域再生に必要な基礎的な知識や考え方について学ぶ。具体的な都市・地域の場所を取り上げながら、その地域に潜む課題や資源とその再生方策について理解する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・複合化した都市・地域課題とその再生のための方策を具体的な事例を通して学ぶことで、都市・地域の再生に必要な基礎的な知識や考え方を身につける。 ・学生自身が主体的に都市・地域再生に向けて取り組もうとする態度を養う。 						
授業計画	<p>第1回 都市・地域の魅力、都市・地域の定義</p> <p>第2回 都市化の過程と都市・地域課題の所在</p> <p>第3回 都市・地域の歴史の変遷</p> <p>第4回 都市空間の構成－街区・敷地のデザイン－</p> <p>第5回 公共空間の再生（1）－公共空間の基本的な考え方と水辺空間の再生－</p> <p>第6回 公共空間の再生（2）－街路・歩行者空間の再生－</p> <p>第7回 公共空間の再生（3）－広場空間の再生－</p> <p>第8回 公共空間の再生（4）－公園・緑地空間の再生－</p> <p>第9回 中心市街地、商店街の再生</p> <p>第10回 木造密集市街地の再生</p> <p>第11回 郊外の再生</p> <p>第12回 農村の再生</p> <p>第13回 リノベーション／コンバージョンによる都市・地域再生</p> <p>第14回 戦争・災害からの復興と都市・地域再生</p> <p>第15回 都市・地域再生への展望、講義のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から新聞記事やニュース、参考書等を参照しながら、魅力的な都市・地域の事例や、都市・地域の課題とその再生方策について考えてもらいたい。 ・可能であれば授業で紹介した魅力的な事例に足を運んでもらいたい。 						
授業方法	資料やパワーポイントによる講義形式を基本とするが、授業中に適宜受講生から意見を求める。						
評価基準と評価方法	<p>授業中試験 50%</p> <p>平常レポート 50%（毎回の授業中に提出するレポート課題を評価する）</p> <p>※ 授業中の私語など明らかに他の受講生に迷惑をかける行為については、試験を受けさせないなどの措置をとる場合がある</p>						
教科書	特に指定しない						
参考書	<p>代表的な文献を以下に示すので、関心があるものを読み進めていくことが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の「都市をつくる仕事」研究会編著『いま、都市をつくる仕事－未来を拓くワークスタイル－』学芸出版社、2011。 ・鳴海邦碩編著『都市の魅力アップ』学芸出版社、2008。 ・馬場正尊＋OpenA著『RePUBLIC－公共空間のリノベーション－』学芸出版社、2013 ・鳴海邦碩、田端修、榊原和彦編著『都市デザインの手法－魅力あるまちづくりへの展開－』学芸出版社、2006（改訂版第7刷） ・広原盛明、高田光雄、角野幸博、成田孝三編著『都心・まちなか・郊外の共生－京阪神大都市圏の将来－』晃洋書房、2010。 ・Jan Gehl（北原理雄訳）『Cities for people（人間の街－公共空間のデザイナー－）』鹿島出版会、2014。 ・ロバータ・B・グラッツ『都市再生』晶文社、1993。 ・西村幸夫、野澤康編著『まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門－』朝倉書店、2012（第4刷） 						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムII（流通・マーケティング）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。 ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを知ることができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティング論のなりたち 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント 第8回 チャンネルのマネジメント 第9回 サプライチェーンのマネジメント 第10回 営業のマネジメント 第11回 顧客関係のマネジメント 第12回 顧客理解のマネジメント（ゲストスピーカー） 第13回 ブランド構築のマネジメント 第14回 ブランド組織のマネジメント 第15回 企業の社会責任（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容）	①流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください） ②新聞・雑誌必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
教科書	石井淳蔵＋神戸マーケティングテキスト編集委員会著、『1からのマーケティング論』、碩学舎						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムIII（消費生活）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	私たちが普段使っているもの、身につけているもの、家にあるものは、ほとんどがどこかで購入されたものである。お店に出向いて買うこともあれば、インターネットで買うということもあるだろう。私たちがどのようにしてこうしたものを買って使っているのか、一連の消費行動を振り返りながら考えていく。そして、経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方について学び、持続可能な社会の形成を考え、消費者の支援に必要な能力と態度とは何か理解を深めていく。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ②自らの消費行動を振り返り、身の回りの変化に関心を高めることができる。 ③消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な知識を身につけることができる。 ④持続可能な社会の形成を考えるきっかけとなる。						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する） 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ） 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？） 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはどう生まれるのか） 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか— 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果—（ゲストスピーカー） 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？— 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？— 第13回 ステータス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？— 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー） 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容）	常に新聞を見て情報を集めておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
教科書	松井剛・西川英彦編著『1からの消費者行動』、2016年、中央経済社						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムⅣ（生活と経済）						
担当教員	前田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	学生にとって身近な問題と関連させながら、生涯を見通した生活設計や資産管理の基本的な考え方について学ぶ。						
授業の概要	近年、メディア報道で経済的諸問題、具体的には国債発行に見る累積赤字、不良債権問題と金融危機、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題、円相場の変動と輸出入の関係、産業の空洞化などが多く取り上げられている。失業率上昇や就職率低下などの雇用問題や産業の空洞化など、学生の卒業後の生活とかかわる問題と関連させながら、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済循環における家計の位置付けを可系の可処分所得の分析などの具体的な事例を通して理解できるようになる。 ・生涯にわたる短期・長期の生活設計を行う上での個人の資産管理の基本的な考え方を理解できるようになる。 ・キャッシュレス社会とその課題について理解できるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス～日本の家計の金融行動と日本経済の資金循環 第2回 今日の家計の特徴：家計の金融資産残高の伸び悩み、家計貯蓄率の大幅な低下、金融資産格差の拡大 第3回 貨幣の時間価値①：貨幣の時間価値と機会費用 第4回 貨幣の時間価値②：貨幣の現在価値と将来価値 第5回 金利①：金利の分類、名目金利と実質金利 第6回 金利②：単利と複利、債券価格、株式価格と金利 第7回 長期の生活設計におけるリスク管理：ライフステージごとのキャッシュフローの在り方、リスク管理の手法 第8回 生涯賃金と支出 *ゲストスピーカー招聘予定 第9回 社会保障制度～中間試験 第10回 個人・家計の負債利用①：負債利用の意思決定プロセス、負債のコスト 第11回 個人・家計の負債利用②：ローンの種類と目的 第12回 個人・家計の負債利用③：クレジットローンの利用と返済 第13回 ライフプラン実習：ライフイベントの数値化、キャッシュフロー表とバランスシート表 第14回 金融商品①：金融商品の種類、金融リスク、金利と利回り 第15回 金融商品②：債券の種類、債券価格と利回り、信用リスクと利回り格差						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題は授業時間内だけではなく、授業時間外も出すので、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	講義とグループ学習による問題演習						
評価基準と評価方法	授業時間中・授業時間外の課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムV（生活と法）						
担当教員	乗井 弥生						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	受講生がこれから生活していく中で接することが想定されるいくつかの法制度や法律問題について講義を行う。						
授業の概要	私たちの日々の生活には法が深く関わっています。そして、その法は、「過去の法」が変化して「現在の法」となり、「現在の法」の不十分な点や矛盾を克服して「未来の法」へとつながるものです。新聞報道された著名な事件や、担当教員が弁護士として関わった問題を題材にしながら、学生の皆さんにとって身近な法の変化を学び、①自らが法形成の主体であることを自覚できるようにするとともに、②生活する上で知っておきたい法的知識を修得することを目的として、講義をおこないます。						
到達目標	受講生が日常生活において触れることの想定される基礎的な法制度・法律問題についての知識を修得する。						
授業計画	<p>計画は現時点での予定です。受講生の理解度や興味に応じて進度・順序・テーマを変更する可能性もあります。</p> <p>第1回 法と学生の関わり 第2回 性暴力と法（1） 現行の刑法や刑事訴訟法の知識 第3回 性暴力と法（2） 被害者支援の現状 第4回 スクール・セクシュアル・ハラスメントと子どもの問題 第5回 家族と法（1） 結婚に関わる法 第6回 家族と法（2） 配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）と法 第7回 家族と法（3） 結婚、離婚と女性の経済的自立の問題 第8回 家族と法（4） 離婚と子どもに関わる法（親権、養育費、面会交流） 第9回 家族と法（5） 介護、成年後見、相続と法 第10回 働くことと法（1） 労働法の基礎知識 第11回 働くことと法（2） 職場におけるセクシュアル・ハラスメント 第12回 働くことと法（3） 働くことと出産・育児を両立させるための制度 第13回 女性のライフスタイルの変化と、社会保障・税制の問題 第14回 いわゆるデートDV、ストーカー被害と法 第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習、復習が指示された場合は、これを行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験70%、各回提出のリアクションペーパー（受講生コメント・質問）などによる平常点30%						
教科書	特に指定しません。授業中にテーマにそった資料を配布します。						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータ（Word, Excel, PowerPoint）を活用し、基本的な情報処理技術の修得を目指す。情報化社会とされる今日、日常生活における様々な問題を解決するために、データを適切に表にまとめグラフ化することや、分析結果を考察する力が求められている。文章作成演習では、ビジネス文章作成、企画書作成の基礎を学び、表計算ソフトの活用では、データ入力と分析、グラフ作成を行なう。また、プレゼンテーションの基礎では、統計処理されたデータを分析し、考察した結果をプレゼンテーションとして発表する実習を行なう。そして、自身の関心分野について、こうした技術を活用し、データを収集、加工することを通して、社会問題に対する意識を高め、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力を養うことを目的とする。						
到達目標	Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70% プレゼンテーションの課題と実演30%						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータ（Word, Excel, PowerPoint）を活用し、基本的な情報処理技術の修得を目指す。情報化社会とされる今日、日常生活における様々な問題を解決するために、データを適切に表にまとめグラフ化することや、分析結果を考察する力が求められている。文章作成演習では、ビジネス文章作成、企画書作成の基礎を学び、表計算ソフトの活用では、データ入力と分析、グラフ作成を行なう。また、プレゼンテーションの基礎では、統計処理されたデータを分析し、考察した結果をプレゼンテーションとして発表する実習を行なう。そして、自身の関心分野について、こうした技術を活用し、データを収集、加工することを通して、社会問題に対する意識を高め、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力を養うことを目的とする。						
到達目標	Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70% プレゼンテーションの課題と実演30%						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。 ・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。 ・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。 ・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。 						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ① 第15回 授業のまとめ②						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で予習・復習を必ず行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。 ・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。 ・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。 ・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。 						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ① 第15回 授業のまとめ②						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で予習・復習を必ず行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活と仕事						
担当教員	江 弘毅						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	「グローバル資本主義」「株式会社」というシステムのなか、わたしたちの都市生活における「仕事」を考える。						
授業の概要	生計を立てる手段である「仕事」は大いに生活と関わり合っている。この講義では、株式会社や組織、働く理由や評価、仕事におけるプロセスとゴールなどの諸問題を通して、「働くことはどういうことなのか」について考察する。						
到達目標	(1) 仕事、ビジネスについて長期的で幅広い視点を持つことができる。 (2) 「就職」「起業」などキャリアプランの設計ができる。 (3) 自分のやりたい仕事について具体的に考えることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業の概要とそこで学ぶこと 第2回 企業＝株式会社の原理 第3回 ビジネスと精神 第4回 会社と組織 第5回 経済成長と消費生活 第6回 人が働く理由。モチベーションの構造 第7回 仕事と評価、給与 第8回 ビジネスの哲学について 第9回 都市生活と消費、企業 第10回 利益共同体としての会社 第11回 インターネットとビジネス 第12回 「銭湯経済」の消費生活 第13回 経済成長から縮小均衡の時代へ 第14回 自分の「やりたいこと」について 第15回 「生活と仕事」は文学作品でどう記述されているか						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義前の準備：教科書と参考書を通読すること。 講義後の復習：講義でふれたテーマについて、教科書、参考書を参照しながら、学んだこと感じたことを書くこと。						
授業方法	毎回テキストの講読をもとに講義します。講義テーマ応じた800字のエッセイ（試論）を最低3回書いて提出すること。						
評価基準と評価方法	試験は実施しない。エッセイ（試論）60%、授業中の態度、コール&レスポンス40%。						
教科書	『一回半ひねりの考え方 反戦略ビジネスのすすめ』平川克美著、角川新書、ISBN:9784040820798 『「消費」をやめる』平川克美著、ミシマ社、ISBN:978-4-903908-53-3						
参考書	『小商いのすすめ』平川克美著、ミシマ社、ISBN:9784903908328 『この世にたやすい仕事はない』津村記久子著、日本経済新聞社、ISBN:9784532171360						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎Ⅰ						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学問的専門領域のための生物学と化学						
授業の概要	生活の科学基礎Ⅰは、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活するにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。						
到達目標	レベルⅠ：化学や生物が生活に役立てられることを理解する。 レベルⅡ：衣食住に関わるモノや事象を科学的な眼で見ることができる。 レベルⅢ：科学的視点によって、モノの効率的な利用方法を提言したり、モノ自体を改良したりすることができる。						
授業計画	第1回 生物学や化学をなぜ学ぶのか 第2回 生物とは ～共通性と多様性 第3回 生物がもつ共通する物質 第4回 すべての生物がもつ細胞 第5回 生体エネルギーと代謝 第6回 遺伝情報と遺伝子・ゲノム 第7回 細胞の分裂 ～生殖と発生 第8回 ヒトの体内環境、健康と病気 第9回 植物と環境応答 第10回 生物進化と多様な生物 第11回 生態系と環境 第12回 バイオテクノロジー 第13回 高分子化学 第14回 エネルギー 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習：新書版である生物学の教科書について、次回の授業範囲を一読しておく。 復習：授業で触れた化学図録の範囲を読み直し、身の回りのモノや事象に照らし合わせ、生じた疑問を講義ノートに記述する。						
授業方法	講義 新書版である生物学の教科書に沿って授業を進める。同時に、化学の図録を用いて、化学の解説を行う。						
評価基準と評価方法	平常点 60%（毎回の授業ノートの記述内容。復習における疑問の記述も含める。） 試験 40%						
教科書	カラー図解でわかる高校生物超入門（サイエンス・アイ新書）、芦田 嘉之(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:978-4-797-38219-8 改訂版 フォトサイエンス化学図録、数研出版編集部（編）数研出版、ISBN：978-4-410-27315-5						
参考書	カラー図解でわかる高校化学超入門（サイエンス・アイ新書）、齋藤 勝裕(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:978-4-797-36246-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	柳田 潤一郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活の科学基礎として、色々な生物を科学的に理解する。						
授業の概要	自然科学的な知識を増やすために、動植物をはじめ微生物も含めその細胞の構造や機能、代謝について学ぶ。また、感染症や免疫などの話題も取り上げ、ヒトと微生物の深いつながりも理解する。できれば、日常、眼で確認しにくい細胞や微生物を観察し、スケッチする。						
到達目標	生物学的な知識を増やし、人間をヒトとして科学的に（恒常性、栄養、感染症の面から）理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 今、話題のサイエンス 第3回 ヒトと微生物の関わり 第4回 生物の分類 第5回 いろいろな生物の観察（スケッチなど） 第6回 いろいろな生物の観察（2回目、スケッチなど） 第7回 いろいろな細胞の顕微鏡的観察（スケッチも） 第8回 いろいろな細胞の顕微鏡的観察（2回目、スケッチも） 第9回 タンパク質、酵素 第10回 エネルギーと代謝 第11回 体液と恒常性 第12回 感染症、免疫 第13回 遺伝 第14回 テーマ別発表会 第15回 質疑応答、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を読む。 雑誌や新聞等で生活科学関連記事を探す。						
授業方法	講義形式および動植物や細胞観察のため顕微鏡を用いての実験を予定している。						
評価基準と評価方法	筆記試験：50点 数回のレポートおよび観察スケッチ：50点						
教科書	講義プリントを配布する。						
参考書	講義中に適宜紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	青谷 実知代						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	今までに学んだ生活・消費に関する専門的知識から、主に企業のマーケティングや消費の仕方、ブランド展開等 人との関わり方や仕組みについて取り上げ、自ら論文を作成することができる。						
授業の概要	企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動と いった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけら れるよう、1つ1つ丁寧に取り組むことを目的とする。 色々な事柄のなかから自分の興味・関心のあることから卒業研究のテーマを絞り、その後卒業論文としての構成 をどのように立てるのか具体的に考えていく（テーマを絞り込む）。既にそのテーマでされている先行研究の検 索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーショ ンという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。 この過程では、好奇心旺盛に取り組みながら見聞を広め、主体性・協調性も共に大切になることも学ぶ。						
到達目標	①日頃から関心のあるテーマを自分で見つけ、関心を高めることができる ②問題点を見つけて出し調査を進める中で、独自の結果を導くことができる。 ③課題を批判的に捉え、論文を作成することができる。						
授業計画	第1回. 卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第2回. 関心のある分野の領域 第3回. テーマ設定（原則） 第4回. 研究計画の立て方（論文構成と章構成） 第5回. 資料探しと文献検索の方法① 第6回. 資料探しと文献検索の方法② 第7回. 論文の書き方 第8回. 研究計画の発表① 第9回. 研究計画の発表② 第10回. 研究計画の発表③ 第11回. 研究計画の発表④ 第12回. テーマ決定後の進め方 第13回. 情報収集と先行研究のまとめ 第14回. 中間発表① 第15回. 中間発表② 第16回. 調査方法論の中間発表①（アンケート調査） 第17回. 調査方法論の中間発表②（インタビュー調査） 第18回. 調査方法論の中間発表③（フィールド調査） 第19回. 調査方法論の中間発表④（歴史資料調査） 第20回. 文献収集・先行研究批判 第21回. 文献収集とノート作り 第22回. 論文執筆（章立ての確認） 第23回. 引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法 第24回. 研究論文の発表① 第25回. 研究論文の発表② 第26回. 研究論文の発表③ 第27回. 研究結果と考察① 第28回. 研究結果と考察② 第29回. 卒論発表の仕方 第30回. 最終チェックとプレゼンテーションの準備						
授業外における 学習（準備学習 の内容）	興味のあることを深く知るために、様々な情報を常に探しておきましょう。						
授業方法	演習						
評価基準と 評価方法	プレゼンテーションや発表準備（20%）、論文作成過程における中間評価（20%）、卒業論文の内容（60%） など総合的に評価する。						
教科書	なし。（必要に応じて資料を配布する）						

参考書	各自のテーマに併せて、参考文献を紹介する
-----	----------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	竹田 美知						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	1年から3年で学んだ都市生活に関する専門知識に立った上で、主に家族の関係や生活経営上の問題について、自ら問題を設定して取り組む。						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題をとりあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに組み組み達成していく過程を通して、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	知識 自分の問題意識に基づいた先行研究を読み解き、批判的思考によって新たな研究視点に基づき論理的に考える力をつける。 能力 問題を解決するための方法を選択し、文献調査や社会調査によって問題を分析し解決方法を見つけ出すことができる。 態度 家族の生活問題を解決し、社会貢献に対して積極的になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の関心と領域 2. テーマの設定 3. 研究計画発表 4. 卒論の構想について 5. 情報収集、文献検索の方法 6. 図書館利用のコツ 7. 公的資料の探し方 8. 論文の書き方 9. 引用文献の書き方・注の書き方 10. 専門用語の定義について 11. 文章の点検と推敲 12. テーマの関する先行研究の紹介・発表 13. 各自の中間発表Ⅰ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 14. 各自の中間発表Ⅱ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 15. 各自の中間発表Ⅲ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 16. 研究方法についての確認（質問紙調査） 17. 研究方法についての確認（インタビュー調査） 18. 研究方法についての確認（ドキュメント調査） 19. 各自の研究Ⅰ・研究状況中間発表Ⅰ 20. 各自の研究Ⅱ・研究状況中間発表Ⅱ 21. 各自の研究Ⅲ・研究状況中間発表Ⅲ 22. 研究成果と卒論の構成 23. 研究成果と図表の作り方 24. 研究成果と考察・結論 25. 卒論発表の仕方 26. 口頭発表の仕方 27. ポスター発表の仕方 28. 概要の書き方 29. 卒論の最終チェック 30. ゼミ内発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分自身で設定したテーマの資料収集を授業外には行い、フィールドでは積極的に参与観察を行い調査をする。調査の設計、データの入力、データクリーニング、データ分析、発表の準備に関しては授業外に行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション（10%）、授業における貢献度（5%）、卒業論文作成過程における中間評価（5%）、卒業論文の内容（80%）						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成						
授業の概要	卒論に向けて、心理学の実験研究をおこなう。自ら心理学の課題を設定し、先行研究を探索、紹介し、課題を設定したのち、課題解決のための方法を計画、実施し、データをまとめ、考察し、プレゼンテーションし、卒業論文としてまとめる。						
到達目標	先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画をたて、実行、まとめ、発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実験・調査の準備 3. 実験・調査の準備 4. 実験・調査の準備 5. 実験・調査の準備 6. 第1回報告会 7. 実験・調査の実施 8. 実験・調査の実施 9. 実験・調査の実施 10. 実験・調査の実施 11. 実験・調査のまとめ 12. 実験・調査のまとめ 13. 実験・調査のまとめ 14. 第2回報告会 15. 第2回報告会 16. 実験・調査の準備 17. 実験・調査の準備 18. 実験・調査の準備 19. 実験・調査の準備 20. 実験・調査の実施 21. 実験・調査の実施 22. 第3回報告会 23. 実験・調査のまとめ 24. 実験・調査のまとめ 25. 実験・調査のまとめ 26. 実験・調査のまとめ 27. 実験・調査のまとめ 28. 実験・調査のまとめ 29. 第4回報告会 30. 第4回報告会、講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、次の実験や発表に生かす。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	報告書や卒論(80%)、参加の取り組み(20%)						
教科書							
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	長谷川 誠						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	授業を通して、論文執筆のための方法や技術を修得し、各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる						
授業の概要	授業の目的は、卒業論文を完成させることです。そのために各自のテーマや関心を深めることが重要となります。前期は、論文執筆のための情報収集や文献整理の方法を学び、それぞれ興味関心に基づいて独自のテーマを設定しながら内容報告を行います。後期は、ゼミ内での発表や個人指導、中間報告会を実施し、卒業論文の執筆を行います。						
到達目標	各自の興味関心に沿って卒業論文を執筆、完成させる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究、卒業論文について 2. 研究計画の立て方① 3. 研究計画の立て方② 4. 各自のテーマ、関心について① 5. 各自のテーマ、関心について② 6. 各自のテーマ、関心について③ 7. 先行研究の調査① 8. 先行研究の調査② 9. 先行研究の調査③ 10. 調査結果の考察① 11. 調査結果の考察② 13. 調査結果の考察③ 14. 各自の研究内容の報告と質疑応答① 15. 各自の研究内容の報告と質疑応答② 16. 中間報告会① 17. 中間報告会② 18. 各自の研究内容に関する個人指導① 19. 各自の研究内容に関する個人指導② 20. 各自の研究内容に関する個人指導③ 21. 各自の研究内容に関する個人指導④ 22. 中間報告会③ 23. 中間報告会④ 24. 各自の研究内容に関する個人指導⑤ 25. 各自の研究内容に関する個人指導⑥ 26. 各自の研究内容に関する個人指導⑦ 27. 各自の研究内容に関する個人指導⑧ 28. 最終報告会① 29. 最終報告会② 30. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、資料収集、調査						
授業方法	演習、個人指導を中心とする						
評価基準と評価方法	研究への取り組み30% 卒業論文70%						
教科書	授業中に紹介する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	花田 美和子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	衣生活学、色彩学に関連するテーマを取り上げ、卒業論文を作成する。						
授業の概要	前期はテーマを設定し、先行研究の調査、予備実験等をおこなった上で、研究計画を作成する。後期は定期的に進捗を確認しながら本実験、調査を進め、12月中に原稿を作成、提出締切日までに卒業論文を完成させる。						
到達目標	各自のテーマに沿って研究を行ない、知見を得る。 論理的に文章を組み立て、一定水準の卒業論文を完成させる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の紹介 1 第3回：先行研究の紹介 2 第4回：先行研究の紹介 3 第5回：テーマの設定と研究計画の検討 1 第6回：テーマの設定と研究計画の検討 2 第7回：テーマの設定と研究計画の検討 3 第8回：予備実験 1 第9回：予備実験 2 第10回：予備実験 3 第11回：研究テーマと研究計画の発表 1 第12回：研究テーマと研究計画の発表 2 第13回：研究テーマと研究計画の発表 3 第14回：研究の実践 第15回：研究の実践 第16回：中間発表 第17回：研究の実践 第18回：研究の実践 第19回：研究の実践 第20回：研究進捗状況の確認 第21回：研究の実践 第22回：研究の実践 第23回：研究の実践 第24回：研究進捗状況の確認 第25回：卒業論文執筆の方法 第26回：研究進捗状況の確認 第27回：論文の完成 第28回：論文要旨作成 第29回：研究発表準備 第30回：研究発表準備						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間外にも研究を進めていくことが必要となる。 一斉授業の他、必要に応じて個人指導をおこなう。						
授業方法	演習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み（50%） 卒業論文（50%）						
教科書	使用しない。						

参考書	随時紹介する。
-----	---------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	前田 直哉						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	1年次から3年次の間で学んできたことの集大成として、各自が都市生活上の問題に取り組み、その解決策を提示する。						
授業の概要	個人研究報告がメインとなる。各自が卒業論文の全体構想と構成内容について報告して、議論を重ね、それぞれの内容を繰り返し見直すことを通じて、卒業論文を完成させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が都市生活を営む上でどのような問題を存在するかを考え、その先行研究を批判的に検討した上で、新たな課題(テーマ)を見つけ出すことができるようになる。 ・各自が設定した課題(テーマ)を適正な理論とデータに基づいて分析することができるようになる。 ・卒業論文の作成とその報告を通じて、都市生活にとって有用な提言を行うことができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス～卒業論文の書き方 第2回 卒業論文の全体構想(1) 第3回 卒業論文の全体構想(2) 第4回 卒業論文の全体構想の見直し 第5回 第1節：問題意識の設定(1) 第6回 第1節：問題意識の設定(2) 第7回 報告内容の見直し 第8回 資料収集(1)：図書館の利用 第9回 資料収集(2)：インターネットの利用 第10回 参考文献の作成 第11回 第2節：先行研究のサーベイ(1) 第12回 第2節：先行研究のサーベイ(2) 第13回 報告内容の見直し 第14回 図表の作成方法 第15回 前期の総括～夏休み期間中の課題研究 第16回 夏休み期間中の課題研究報告(1) 第17回 夏休み期間中の課題研究報告(2) 第18回 報告内容の見直し 第19回 第3節：問題の全体像とそのアプローチ(1) 第20回 第3節：問題の全体像とそのアプローチ(2) 第21回 報告内容の見直し 第22回 第4節：事例研究報告(1) 第23回 第4節：事例研究報告(2) 第24回 報告内容の見直し 第25回 第5節：結論(1) 第26回 第5節：結論(2) 第27回 報告内容の見直し 第28回 卒業論文の最終チェック 第29回 口頭試問(1) 第30回 口頭試問(2)						
授業外における学習（準備学習の内容）	関係資料の収集、報告書の作成、報告の準備は授業外の時間で行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	報告(40%)、リアクションペーパー(20%)、卒業論文(40%)						
教科書	特に使用しない。						
参考書	各自のテーマに合わせて、適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	松木 宏美						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	これまでに学んだ「食」に関する専門知識に立ったうえで、「食」関連の課題に関するテーマを設定し、問題解決に取り組む。						
授業の概要	「食」関連の課題に関するテーマを自ら設定し、それについて分析・考察を行って、課題解決のための方法を見出し卒業論文としてまとめる。						
到達目標	自ら設定した課題について、その解決方法を見出し、最終的に、社会へ発信していけるような内容にまとめることを目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 テーマの設定説明 第3回 個人別テーマの検討 第4回 個人別テーマの設定 第5回 中間発表会（プレゼンテーション） 第6回 テーマと研究計画の確定 第7回 個人別テーマ調査 第8回 個人別テーマ分析 第9回 個人別テーマ調査、分析、実験計画の策定 第10回 個人別テーマ実験計画の策定 第12回 個人別テーマ調査、実験実施 第13回 個人別テーマ調査、分析、実験実施 第14回 中間報告会（プレゼンテーション） 第15回 個人別テーマの検討会 第16回 研究の方向性、論文のまとめ方説明 第17回 研究の実施（調査、実験） 第18回 研究の実施（調査、実験、実習） 第19回 研究の実施（調査、実験、実習、分析） 第20回 研究の実施（調査、実験、実習、分析）、調整 第21回 データ整理の手法について 第22回 研究の実施、論文執筆（目的） 第23回 研究の実施、論文執筆（方法） 第24回 研究の実施、論文執筆（結果） 第25回 研究の実施、論文執筆（考察と要約） 第26回 研究の実施、引用文献の整理と確認 第27回 研究発表指導（まとめ方説明） 第28回 研究発表指導（発表資料作成） 第29回 研究発表会練習 第30回 研究発表会練習、総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	先行研究等の文献調査、資料収集、フィールドワーク						
授業方法	講義、実習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み方(40%)、プレゼンテーション(20%)、卒業論文作成(40%)について評価する。						
教科書	適宜プリント等配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	長谷川 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成 						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	前田 直哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) --元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成 						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理学						
担当教員	松木 宏美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調理の科学性を理解し、食生活と結びつける。						
授業の概要	調理の目的・意義をふまえ、食品ごとの調理性を具体的に学ぶことによって、食生活における調理を再認識する。同時に、現代社会の食生活と調理について、自らの食生活と調理を介して考察を深める。さらに、食文化や環境の視点からも料理を捉え、食生活の基礎となる「健康的な食事」の実践に向けた積極的な食事計画や調理の果たす役割を理解する。						
到達目標	調理操作の目的・意義を理解し、食品の調理性を知ることによって、自らの食生活に活かすことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理の目的・意義 第2回 調理とおいしさの向上 第3回 調理と安全性の向上 第4回 調理と栄養上の向上 第5回 調理操作 第6回 植物性食品の調理性（穀類：米・小麦・その他、いも類） 第7回 植物性食品の調理性（豆類、野菜類、果物類、海藻類、きのこ類） 第8回 動物性食品の調理性（食肉類、魚介類） 第9回 動物性食品の調理性（卵類、乳・乳製品） 第10回 成分抽出素材の調理性（でんぷん、油脂類、調味料、嗜好飲料、他） 第11回 献立作成（食事計画） 第12回 食文化と調理 第13回 調理と環境 第14回 食生活と健康 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 授業前後には、教科書の該当箇所を読み、自らの食生活と関連づけて理解を深める。 2. 日常の食生活や調理に対して積極的に目を向け、健康的な食事について考えてみる。 3. 社会の状況や関連事項などに関心を持ち、食生活を取り巻く現状について考えてみる。						
授業方法	講義形態ですすめ、時にはグループワークも行う。講義は教科書をもとに、適宜パワーポイントや映像を用いる。毎回授業の終わりには、その日の課題についてまとめる時間を設け、ミニレポートとして提出する。また、数日間の食生活記録の課題にて、自らの食生活を客観的に振り返る機会とする。						
評価基準と評価方法	期末試験 40%、課題 30%、平常点（受講態度・ミニレポート）30%						
教科書	『調理学—生活の基盤を考える』、吉田 勉監修、南 道子・舟木淳子編著、学文社、ISBN978-4-7620-2264-7						
参考書	『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6 『たのしい調理—基礎と実習』第4版、水谷令子他著、医歯薬出版株式会社、ISBN978-4-263-70517-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	馬場 公恵						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	実践による食事作りの理解						
授業の概要	調理は科学である。 調理学で学んだことを基礎とし、実際に調理実習を行うことにより食文化をふまえた調理の意義・基本技術を身につけていく。 「楽しい食とは」・「正しい食」とは何かを学び、献立作成・実習に結びつけていく。						
到達目標	食の「おいしさ」「楽しさ」「おもてなし」が理解でき、実践できるようになる。 バランスのよい食事を理解し、献立作成・実習ができ、実際の生活に生かすことができる。						
授業計画	<p>第1回 授業内容の説明 お箸の持ち方テスト 調理の基本操作 (p3) テーブルマナー (p112)・パン・ポテトサラダ (p117)・紅茶 (p119)</p> <p>第2回 パン・コンソメスープ (p114)・鮭のムニエル・グリーンサラダ (p115) コーヒーゼリー (p125)</p> <p>第3回 パン・コンソメジュリアン (p126)・ハンバーグ・かぶのサラダ (p136)・ブラマンジェ (p144)</p> <p>第4回 日本料理の基礎 (p34) ご飯 (p24) (鍋) (おにぎり)・みそ汁・ほうれん草のごま和え (参p27)・あちやら漬け (p55) 実技テスト (大根いちょう切り2~3mmに)</p> <p>第5回 さつまいもご飯 (p26)・魚の煮付け・小松菜の煮浸し (p45)・緑茶の入れ方 (p66)</p> <p>第6回 シソ飯 (p46)・鯛のかば焼き・五目煮・焼きナス</p> <p>第7回 ご飯・沢煮椀 (p40) 鱈の南蛮漬け・切干大根の煮物・わらびもち (p64)</p> <p>第8回 そぼろご飯 (p40)・菊花豆腐のすまし汁・天ぷら (p28)・ブドウ大福 (参p63)</p> <p>第9回 マカロニグラタン (p132) ホットサラダ・フルーツゼリー</p> <p>第10回 中国料理の基礎 (p68) ご飯・乾炸鶏塊 (p76)・凉拌海蜇・麻婆豆腐・奶豆腐 (p104)</p> <p>第11回 什錦炒飯 (p95) 玉米湯 (p79)・凉拌三絲 (p78)・冬茹妙青梗菜 (p96) 実技テスト (きゅうりのせん切り)</p> <p>第12回 お節料理---雑煮 (p176)・たたきごぼう・紅白かまぼこ・きんとん・紅白なます・鱈の幽庵焼き</p> <p>第13回 お弁当 (各自) 材料指定 (まごわやさしい)</p> <p>第14回 イタリア料理---パスタ (p165) ミネストローネ・鱈のオープン焼き・トマトとモッツアレラのサラダ マドレーヌ (138)</p> <p>第15回 まとめ・実技テスト (りんご半個を3等分し皮をむく3分)・小テスト (なお材料等の入荷具合によっては内容・期日を変更する場合あり)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>授業前学習： 実習する献立を事前に配布するので、教科書等で調べ作り方・要点を記入しておく。また作成して見て質問点をまとめておく。(1時間)</p> <p>授業後学習： 授業で学んだ内容を確認してレポート課題に取り組み、期限までに提出すること。 技術を身につけるために実習をもう一度行い、疑問があればレポートに記入する。(1時間)</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	到達目標が達成出来ること。 その評価方法として授業参加態度50% レポート・小テスト20% 実技テスト (箸の持ち方・包丁技術・お弁当作成) 30% とする。						
教科書	これからの調理学実習 基本手法から各国料理・行事食まで 新調理研究会編 ISBN978-4-274-06997-0						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	松木 宏美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	実践による食事作りの理解						
授業の概要	<p>日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。</p> <p>実習はグループで行うが基礎技術は各自が習得する。</p>						
到達目標	<p>基本的な調理操作（非加熱操作、加熱操作、調味操作、盛り付け）ができるようになる。</p> <p>実習で扱った食品の特徴を挙げることができるようになる。</p> <p>実習で扱った食品の特徴と、調理操作や技術を関連づけて列挙できるようになる。</p> <p>実習した献立をもとに献立を作成し、調理操作の流れ図（手順）を設計できるようになる。</p>						
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調理について概要説明、包丁の使い方・計量の仕方、お茶の入れ方 2. 日本料理：白飯・味噌汁・煮浸 3. 日本料理：栗ごはん・すまし汁・魚の煮つけ・即席漬け 4. 日本料理：白飯・味噌汁・秋刀魚の塩焼き・きんぴらごぼう、わらび餅 5. 日本料理：かやくごはん・お吸い物・豚肉の生姜焼き・ほうれん草のゴマ和え、フルーツ大福 6. 西洋料理：ロールパン・ポタージュスープ・ハンバーグ・にんじんのグラッセ、サヤインゲンのソテー・フルーツゼリー 7. 西洋料理：グラタン・コールスローサラダ・ブラマンジェ 8. 西洋料理：ロールパン・ビーフシチュー・豆サラダ・カスタードプディング 9. 日本料理：白飯・さつま汁・だし巻き卵・かぼちやの含め煮 10. 日本料理：白飯・茶碗蒸し・焼魚・白和え・酢の物 11. クリスマス料理：鶏肉のトマトソース煮込み・スープ・ケーキ（自由献立） 12. 正月料理：雑煮・きんとん・田作り・菊花大根・梅花人参・鱈照焼・黒豆甘露煮・紅白蒲鉾・胡瓜（門松） 13. 中国料理：什錦炒飯、蛋花湯、青椒牛肉絲、辣黃瓜 14. 日本料理：巻き寿司・潮汁・白玉団子 15. まとめと実習試験 <p>*授業内容の順番は変更になることがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながら、レポート、実習ノートを完成させてください。授業で行う実習とは別に、自宅で行う実習課題やその他の課題が出されることがありますので、所定の様式で期日までに提出して下さい。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講状況50%、レポート35%、テスト15%						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法I						
担当教員	前田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	質問紙調査で得られたデータの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方と各種分析法とその分析手順について学習する。特に、重回帰分析と因子分析について詳しくとりあげる。						
授業の概要	社会学・経営学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。使用するデータは「社会調査基礎演習I」出得られた質問紙調査で、このデータを統計ソフト（SPSS）を用いて実際に多変量解析を行う。解析の方法は、重回帰分析を中心として、その後データの構造や仮説によって、分散分析や共分散分析、t検定あるいはパス解析や因子分析、数量化理論の適用など、少なくとも2・3種類の統計手法を体験させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができるようになる。 ・今までのデータ知識とは違う読み取り方ができるようになる。 ・得られたデータから現状を理解し、問題点を捉えることができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス～多変量解析とは 第2回 多変量を要約する：多変量データの種類 第3回 データセットの作成方法：SPSSの基本操作 第4回 記述統計の作成方法：SPSSによる記述統計 第5回 分散分析とは：3つ以上のグループで平均値を比較するための手法 第6回 分散分析の適用方法：一元配置の分散分析、二元配置の分散分析 第7回 分散分析を体験する：SPSSによる分散分析 第8回 重回帰分析とは：説明変数が2つ以上の回帰分析 第9回 重回帰分析の適用方法：最小二乗法、偏回帰係数の解釈、決定係数、決定係数の有意性検定、変数選択 第10回 重回帰分析の問題点：多重共線性 第11回 重回帰分析を体験する：SPSSによる重回帰分析 第12回 因子分析とは：複数の観測変数の中から共通因子を抽出するための手法 第13回 因子分析の適用方法：探索的因子分析、確証的因子分析 第14回 因子分析を体験する：SPSSによる因子分析 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	統計ソフトを使い慣れるために、予習・復習を必ず行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法II						
担当教員	江 弘毅						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インタビューすること、インタビュー記事を書くことを実践的に学ぶ。						
授業の概要	質的研究を行うための基礎的な事柄について学習する。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には各自でデータを収集し、整理・分析したレポートを作成する。質的調査の一連のプロセス（研究テーマ作成）を経験することを通じて、基礎的な力を身に付け、実際に質的調査（インタビュー調査）を企画・実施することができるようになることが目的である。						
到達目標	<p>(1) 取材としてのインタビューを実際に行うことができる。</p> <p>(2) インタビュイー（インタビューを受ける人）との十全なりレーションシップを取ることができる。</p> <p>(3) インタビューした内容を情報化、記述することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、評価の方法など）</p> <p>第2回 情報化社会とメディア</p> <p>第3回 情報と情報化</p> <p>第4回 インタビュアー（聞き手）とインタビュイー（話し手）</p> <p>第5回 インタビューの準備と申し込み</p> <p>第6回 インタビューの方法</p> <p>第7回 新聞・雑誌媒体のインタビュー</p> <p>第8回 インタビューを情報化する</p> <p>第9回 取材とインタビュー</p> <p>第10回 コミュニケーションとインタビュー</p> <p>第11回 インタビューから記事を書く</p> <p>第12回 記事のスタイル</p> <p>第13回 雑誌のインタビュー記事</p> <p>第14回 新聞のインタビュー記事</p> <p>第15回 実際にインタビューをしてみる</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌のさまざまなインタビュー記事を読むこと。						
授業方法	編集者／著述家として、実際にインタビュー記事書いている実例をもとに講義する。毎回レジュメを配布し、それをもとに講義する。						
評価基準と評価方法	試験は実施しない。課題提出（インタビュー記事作成）70%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言30%。						
教科書	『インタビュー術！』永江朗著、講談社現代新書、ISBN-13: 978-4061496279						
参考書	『人物ノンフィクション 表現者の航跡』後藤正治著、岩波現代文庫、ISBN-13: 978-4006031879						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活インターンシップI/企業研究（インターンシップ）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来就職したい業種・業界に関連する企業（営利組織を中心に）で必要とされる知識を修得し、10日間の体験を通して専攻の分野がどのように活かされるのか、社会で「働く」ために必要なスキルを身につけながら考える。						
授業の概要	①社会に出て働くことの意義とその働き方について考える。（アルバイト、フリーター、正社員との違い） ②様々な業界・業種の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で業務体験実習（インターンシップ）を行う。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける（自己分析にもつながる） ④自分に適した職業選択ができることやキャリアデザイン（人生設計）が組み立てられるようになることを目指す。 ⑤前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力といった社会人基礎力の必要性について考える。 ⑥営利組織の目的を学ぶ。						
到達目標	①専攻の分野が社会でどのように役立つかを考えることができる ②前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけることができる ③社会で「働く」ことを考えることができる。						
授業計画	【5月20日（土）1.2時間目】 第1回. 実習先の事業内容の確認 第2回. 実習先への提出書類の作成 【7月8日（土）9時～16時】 第3回. 社会人としての心構え—仕事の基本— 第4回. ビジネス・マナーと話し方のマナー 第5回. 「実習先について」「自己紹介の仕方」、学生の発表 第6回. 電話対応のマナー、手紙の書き方 【夏休み中（企業により異なるが7月末～9月中旬の期間のうち2週間（10日間）実習）】 第7回. 企業での現地実習① 第8回. 企業での現地実習② 第9回. 企業での現地実習③ 第10回. 企業での現地実習④ 第11回. 企業での現地実習⑤ 第12回. 企業での現地実習⑥ 第13回. 企業での現地実習⑦ 【9月21日（木）10時～16時】 第14回. 実習報告のまとめ 第15回. 実習報告プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容）	①インターンシップを通して自分は何を得ようとするのか、その目的を明確にしてください。 ②企業で10日間の体験実習を行います（都市生活専攻独自の実習先に研修）。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、学習態度（実習先の研修も含む）と授業参加姿勢など総合的評価（60%）						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活インターンシップII						
担当教員	青谷 実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	行政（地方公務員）やNPOなど非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と体験を行うこと。						
授業の概要	<p>① 営利組織と非営利組織の違いについて考える。</p> <p>② 社会に出て働くことの意義とその働き方について考える。（アルバイト、フリーター、正社員との違い）</p> <p>③ 様々な業界・業種の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で業務体験実習（インターンシップ）を行う。</p> <p>④ 社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける（自己分析にもつなげる）</p> <p>④ 自分に適した職業選択ができることやキャリアデザイン（人生設計）が組み立てられるようになることを目指す。</p> <p>⑤ 前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力といった社会人基礎力の必要性について考える。</p>						
到達目標	<p>① 専攻の分野が社会でどのように役立つかを考えることができる</p> <p>② 前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけることができる</p> <p>③ 社会で「働く」ことを考えることができる。</p> <p>④ 行政や非営利組織の実態を把握することができる。</p>						
授業計画	<p>【5月20日（土）1.2時間目】</p> <p>第1回. 実習先の事業内容の確認</p> <p>第2回. 実習先への提出書類の作成</p> <p>【7月8日（土）9時～16時】</p> <p>第3回. 社会人としての心構え—仕事の基本—</p> <p>第4回. ビジネス・マナーと話し方のマナー</p> <p>第5回. 「実習先について」「自己紹介の仕方」、学生の発表</p> <p>第6回. 電話対応のマナー、手紙の書き方</p> <p>【夏休み中（実習先により異なるが7月末～9月中旬の期間のうち2週間（10日間）実習予定）】</p> <p>第7回. 企業での現地実習①</p> <p>第8回. 企業での現地実習②</p> <p>第9回. 企業での現地実習③</p> <p>第10回. 企業での現地実習④</p> <p>第11回. 企業での現地実習⑤</p> <p>第12回. 企業での現地実習⑥</p> <p>第13回. 企業での現地実習⑦</p> <p>【9月21日（木）10時～16時】</p> <p>第14回. 実習報告のまとめ</p> <p>第15回. 実習報告プレゼンテーション</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>① インターンシップを通して自分は何を得ようとするのか、その目的を明確にしてください。</p> <p>② 行政・非営利組織での現地実習があります（都市生活専攻独自の实習先に研修）</p> <p>※訪問先によっては実習前・後に説明会や報告会が開催されます。</p>						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、学習態度（実習先の研修も含む）と授業参加姿勢など総合的評価（60%）						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習II						
担当教員	花田 美和子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を応用し、地域貢献に結びつける。 産官学共同プロジェクトを通して地域社会から学ぶ。						
授業の概要	前期：神戸市の農家との共同プロジェクトとして、花農家、野菜生産者とのコラボ商品を開発する。 後期：神戸市主催の産官学共同プロジェクトに参加する。						
到達目標	共同プロジェクトの中で役割を果たしながら、長所を伸ばし、短所を克服する。 都市生活専攻で学んだ専門知識を再確認し、応用できるようになる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：カップリングビオラ企画のための打合せ① 第3回：カップリングビオラ企画のための打合せ② 第4回：野菜のレジックラフト、デザインと販売計画① 第5回：野菜のレジックラフト、デザインと販売計画② 第6回：野菜のレジックラフト作成① 第7回：野菜のレジックラフト作成② 第8回：野菜のレジックラフト作成③ 第9回：フィールドワーク 第10回：カラーコンサルタントの事例研究資料の作成① 第11回：カラーコンサルタント資料の作成① 第12回：カラーコンサルタント資料の作成② 第13回：カラーコンサルタント資料の作成② 第14回：共同プロジェクト打ち合わせ① 第15回：共同プロジェクト打ち合わせ② 第16回：共同プロジェクト、ディスカッションと作業① 第17回：共同プロジェクト、共同プロジェクト第1回中間報告 第18回：共同プロジェクト、ディスカッションと作業② 第19回：フィールドワーク 第20回：学祭展示の準備① 第21回：学祭展示の準備② 共同プロジェクト第2回中間報告 第22回：共同プロジェクト、ディスカッションと作業③ 第23回：共同プロジェクト、ディスカッションと作業④ 第24回：共同プロジェクト最終報告 第25回：共同プロジェクトまとめ、反省 第26回：フィールドワーク 第27回：フィールドワーク 第28回：最終課題についてのガイダンス 第29回：最終課題レポート作成 第30回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	打合せやイベントなど、授業期間外（土日、長期休暇）の活動あり。						
授業方法	演習、実験、実習、フィールドワーク						
評価基準と評価方法	平常点70点、レポート30点 平常点は出席状況と授業への取り組みを総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習III						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	心理学実験、心理学調査などの心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法と心理学調査法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。実験編と調査編に分けて実施する。						
到達目標	先行研究を参考にして心理学の実験を計画、実行、まとめ、発表できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. レポートの書き方 3. 研究例の紹介 4. 文献紹介 5. 先行研究の紹介 6. 実験計画法(1) 7. 実験計画法(2) 8. 心理学実験法(1) 9. 心理学実験法(2) 10. 実験(1) 11. 実験(2) 12. データ処理(1) 13. 統計処理法(1) 14. 統計処理法(2) 15. 実験報告(1) 16. 実験報告(2) 17. 実験計画法(3) 18. 実験計画法(4) 19. 心理学調査法(1) 20. 心理学調査法(2) 21. 心理学調査法(3) 22. 調査(1) 23. 調査(2) 24. データ処理(2) 25. データ処理(3) 26. 統計処理法(3) 27. 統計処理法(4) 28. 統計処理法(5) 29. 実験報告(3) 30. 実験報告(4) 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。</p> <p>授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、次の実験や発表に生かす。</p>						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(20%)、レポート(80%)						
教科書							
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習Ⅳ						
担当教員	竹田 美知						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。						
授業の概要	都市生活演習Ⅳでは、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生にとって身近な生活のテーマである「女性の視点からみたライフコースと家庭用品」に焦点をあてる。						
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 知識 量的調査および質的調査の技法を理解する。 能力 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。 態度 フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の文献調査 2. 質的調査の調査方法の確認 3. 質的調査の検討Ⅰ 4. 質的調査の検討Ⅱ 5. 質的調査の検討Ⅲ 6. ライフスタイルアンケート調査方法の確認 7. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅰ 8. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅱ 9. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅲ 10. フィールドワークの準備 ゲストスピーカーカ招聘 11. ファイルドワークⅠ 12. インタビュー調査項目の作成Ⅰ 13. インタビュー調査項目の作成Ⅱ 14. インタビューの実施Ⅰ 15. インタビューの実施Ⅱ 16. インタビューの実施Ⅲ 17. トランスクリプトの作成Ⅰ 18. トランスクリプトの作成Ⅱ 19. トランスクリプトの作成Ⅲ 20. トランスクリプトの分析Ⅰ 21. トランスクリプトの分析Ⅱ 22. トランスクリプトの分析Ⅲ 23. 調査報告書の作成 1 24. 調査報告書の作成 2 25. 調査報告書の作成 3 26. 学生の報告書の発表 1 27. 学生の報告書の発表 2 28. 学外での報告発表 29. プレゼンテーション準備 30. プレゼンテーション 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外学習：調査に関する資料を収集したり、フィールドワークに関しては学外で行う。またトランスクリプトの作成は授業外に作成し、報告書や発表の準備に関しても授業外に行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価						
教科書	プリントを配布						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習V						
担当教員	前田 直哉						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた金融問題に取り組み、金融知識とその実践手法の修得を目指すとともに、「都市生活にとって有用な金融の在り方」について考える。						
授業の概要	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた金融問題に取り組み、金融知識とその実践手法の修得を目指す。また、社会調査と統計データ処理を通じて社会現象の実態を把握し、その知見を金融論的に解釈して、「都市生活にとって有用な金融の在り方」について考える。ゼミナールを進めるにあたっては、グループ研究報告がメインとなる。グループ内で協働して研究報告を行い、議論を重ね、その内容を繰り返し見直し、最終的には報告書を完成させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通じて、どのような金融問題を存在するかを見つけ出し、その解決策を提示するためには、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解できるようになる。 ・グループ内で協働した研究報告とその報告書作成を通じて、「都市生活にとって有用な金融の在り方」について考えることができるようになる。 ・各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス～ゼミナール研究の取り組み方 第2回 プレゼンテーションとディスカッション(1) 第3回 プレゼンテーションとディスカッション(2) 第4回 問題意識の設定と先行研究のサーベイ 第5回 問題の全体像とそのアプローチ 第6回 資料収集：図書館とインターネットの利用 第7回 図表と参考文献の作成 第8回 グループワーク：課題研究報告(1) 第9回 グループワーク：課題研究報告(2) 第10回 報告内容の見直し 第11回 グループワーク：課題研究報告(3) 第12回 グループワーク：課題研究報告(4) 第13回 報告内容の見直し 第14回 報告書の作成 第15回 前期の総括～夏休み期間中のグループ研究 第16回 夏休み期間中のグループ研究報告(1)：問題意識の設定と先行研究のサーベイ 第17回 夏休み期間中のグループ研究報告(2)：問題の全体像とそのアプローチ 第18回 報告内容の見直し 第19回 事例研究と社会調査 第20回 学外見学・研修(1) 第21回 学外見学・研修(2) 第22回 調査結果の分析 第23回 研究の総括：今後の展望と提言 第24回 グループ研究の中間報告(1) 第25回 グループ研究の中間報告(2) 第26回 報告内容の見直し 第27回 報告書の最終チェックと最終報告のリハーサル 第28回 グループ研究の最終報告(1) 第29回 グループ研究の最終報告(2) 第30回 後期の総括～卒業論文に向けて						
授業外における学習（準備学習の内容）	関係資料の収集、報告書の作成、報告の準備は授業外の時間に、グループ内で協働して行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	報告(40%)、リアクションペーパー(20%)、報告書(40%)						
教科書	特に使用しない。						

参考書	各グループのテーマに合わせて、適宜、紹介する。
-----	-------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VI						
担当教員	青谷 実知代						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。						
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。前期のテーマは、地域ブランドについて取り上げる。これまでは、神戸のイメージを表現した洋菓子開発や、他の地域と連携しながら洋菓子を開発するなど行った。さらに後期は、他県へ出向くことで、地域づくりや伝統文化、継承の方法について学ぶ。その中で、創造性を膨らませ、新しい商品づくりに着手する。このように、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を発見し、最終的にはマーケティング担当者や営業担当者などの実務家に、得られた結果をプレゼンテーションできるように目指す。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、実践することができる ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる ③調査データを読み取り、商品につなげることができる						
授業計画	第1回. 演習で取り上げるテーマ発表 第2回. マーケティングを実践することの意義 第3回. 調査目的の明確化① 第4回. 調査目的の明確化② 第5回. 調査枠組みの検討① 第6回. 調査枠組みの検討② 第7回. 質的調査を行うための仮説設定 第8回. 量的調査を行うための仮説設定 第9回. 調査票の素案作りとその方法 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト 第11回. インタビュー調査実施（テーブルおこし） 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて） 第13回. 調査収集とまとめ 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第16回. アイデアだしの方法 第17回. グループディスカッション 第18回. 商品開発の企画・立案の方法① 第19回. 商品開発の企画・立案の方法② 第20回. 企画書の書き方 第21回. 本調査実施① 第22回. 本調査実施② 第23回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）① 第24回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）② 第25回. 中間プレゼンテーション① 第26回. 中間プレゼンテーション② 第27回. 企画書作成 第28回. プレゼン準備と最終確認 第29回. 最終プレゼン発表① 第30回. 最終プレゼン発表②						
授業外における学習（準備学習の内容）	人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いていく!!						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）（20%）、グループディスカッション（20%）、レポート（30%）、プレゼン発表などによる総合評価（30%）						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						

参考書	随時紹介する（参考書リストは授業中に配布します）
-----	--------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VII						
担当教員	江 弘毅						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	私たちにとってかけがえのない「街」、そして現代の都市を支える「情報」について考察する。						
授業の概要	「都市」および「街」について自分でテーマを見つけ、研究する演習の授業。 都市を解読することは、都市空間、店舗、デザインや音楽、芸能、グルメやファッションといった、入り組んだ表現の変数群のひとつずつに着目し解釈する必要がある。身近で具体的な都市、自分の地元となる街、魅力を感じるエリアから、それらの表現を抽出し考察することによって、代替不可能な独自の都市生活を描き出す。						
到達目標	(1) 都市・街を読み解く感性が身につく。 (2) 自分の「地元」としての都市情報を発信することができる。 (3) 自分の「地元」となる「街」を通じて、「わたしとは誰か」を語るすることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この演習の方法を説明します。 第2回 都市・街の読み解き方 第3回 都市・街の地方性 第4回 都市・街のでき方 第5回 おしゃれな街、おいしい街。神戸を例に 第6回 都市・街の表現 第7回 タウン誌、地域情報誌の情報 第8回 都市と郊外、都会といなか 第9回 広告空間、消費空間としての都市 第10回 都市とブランド 第11回 情報化、記号化される都市・街 第12回 都市情報と歴史 第13回 大阪と神戸、阪神間 第14回 京都・大阪・神戸の上方文化 第15回 自分の街、地元感覚 第16回 都市と流行 第17回 都市と「わたし」。匿名性と実名性 第18回 都市と言語、関西方言 第19回 関西弁の文学動向 第20回 神戸の文学作品 第21回 都市と写真、アート 第22回 都市と地図、暦 第23回 都市と食 第24回 都市とメディア。インターネット 第25回 街の拠点としての喫茶店、カフェ、酒場 第26回 都市と商業 第27回 都市と仕事 第28回 人があつまること。都市の吸引力 第29回 都市と交換、贈与 第30回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	準備学習として、都市や街（自分の地元や神戸が望ましい）について表現された文章、写真、アートなどを読むこと。実際に街に出て、歩き、見て、感じたことを書いたり、写真を撮ったり、スケッチする。						
授業方法	講義と各自、グループでの発表。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。発表60%。授業への参加意識と参画態度40%。						
教科書	『濃い味、うす味、街のあじ。』江 弘毅著、140B ISBN-10: 4903993264						
参考書	その都度、指示します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観する						
授業の概要	現在、都市をめぐる環境は、インナーシティの問題に加え、商店街の衰退やオールドニュータウン化が進む一方で、都心のマンションラッシュなど都心回帰も始まっている。神戸をはじめとする都市部では、コレクティブハウジングなど新しい住まい方も生まれ、また、行政と協働で生活マナー向上の取り組みも始まっている。本講義では、都市の成り立ちも含めたハード面や、生活上のソフト面を解説し、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例を取り上げながら、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 近代～現在の都市生活を知り、まちづくりに参画することができる。 (2) 高度情報化社会の中のまちを情報化、記述し、都市情報を発信することができる。 (3) まちづくりのための具体案を出すことができる。 						
授業計画	第1回 まちを読み解く 第2回 京都・大阪・神戸の街 第3回 街と都会。街らしさと地方性 第4回 まちのでき方。大阪アメリカ村・南船場・堀江を例に 第5回 インターネット時代と都市空間 第6回 モバイル、コンビニ化される街 第7回 都市消費生活、消費者と匿名性 第8回 情報化、記号化、広告化される街 第9回 消費情報のなかの「都市」「都会」 第10回 「ファスト風土化」される街と商店街 第11回 街場のコミュニケーション 第12回 都市生活のなかの自己決定、自己責任 第13回 「自分の街」と居場所 第14回 コミュニティとしての都市、都会、街。ネットワーク 第15回 「わたし」の都市生活について書く						
授業外における学習（準備学習の内容）	あらかじめ授業計画のテーマについて、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間の目安：1時間）。街（例えば神戸）についての情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間の目安：1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
教科書							
参考書	『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコブス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナルド・スティグレル著、新評論 ISBN-10: 4794807430						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる。 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる。 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べるすることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 第2回：糸の分類 第3回：糸の構造（1）糸の太さ 第4回：糸の構造（2）糸のより 第5回：織物の組織と種類（1）一重組織 第6回：織物の組織と種類（2）誘導組織他 第7回：代表的な織物の特徴 第8回：まとめと中間試験 第9回：編物（1）編物の構造、代表的な編物の特徴 第10回：その他の被服材料（1）レース、ネット、不織布、組物 第11回：その他の被服材料（2）皮革、毛皮 第12回：その他の被服材料（3）羽毛他、被服材料の消費性能 第13回：まとめと期末試験 第14回：試験の復習と最終課題 第15回：学外研修、小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：身近な被服材料に関心を持ち、授業で学んだ事柄を確認すること。						
授業方法	講義、VTR、演習、学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）試験は中間と期末の2回実施する。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学実験						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験						
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明し、よりよい衣生活に生かしていく上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：繊維の鑑別—顕微鏡による繊維の観察 第2回：繊維の鑑別—繊維の燃焼性と比重 第3回：繊維の鑑別—染色法、混用率測定 第4回：糸の太さ 第5回：糸の撚り 第6回：織物の基本構造 第7回：編物の基本構造 第8回：織物の水分率 第9回：布の吸水性 第10回：布の防しわ性と剛軟性 第11回：布の保温性、糸の引張強さ 第12回：布の通気性と引き裂き強さ 第13回：布のドレープ性と摩擦強さ 第14回：布のピリング 第15回：布の撥水性、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読み、実験内容を把握しておくこと。 授業後学習：レポートを作成し、次回の授業時に提出すること。						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点（40-60%）、レポート（40-60%）						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院 ISBN 9784810311044						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	被服整理学とは、被服の管理に関する学問である。取り扱う内容は、日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまで及ぶ。本講義では、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。						
到達目標	被服の洗浄理論を説明することができる。 素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤 第3回：洗剤の成分と洗浄作用（1）界面活性剤の性質 第4回：洗剤の成分と洗浄作用（2）界面活性剤の種類 第5回：洗剤の成分と洗浄作用（3）配合剤の種類と洗浄作用 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗濯機、家庭洗濯 第8回：洗浄力・機械作用の試験法と評価 第9回：漂白剤と増白、しみ抜き 第10回：糊つけと仕上げ、衣服の保管 第11回：商業洗濯、取扱い絵表示 第12回：まとめと期末試験 第13回：学外研修事前学習 第14回：学外研修1 第15回：学外研修2 小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、DVD、学外研修（白星社クリーニング※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：界面現象 第2回：界面活性剤の性質と作用 第3回：石けんの製造 第4回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第5回：精練・漂白・増白 第6回：しみぬぎ 第7回：洗濯に伴うトラブル 第8回：西洋茜による染色 第9回：酸性染料による染色とその色 第10回：直接染料による染色と染色条件の検討 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	実験したことをレポートにまとめ、次の週に提出。 被服整理学で学んだ内容と関連づけて学習すること。						
授業方法	個人またはグループによる実験。						
評価基準と評価方法	平常点（40～60%）、レポート（40～60%）						
教科書	プリント配布						
参考書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろうか。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。						
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。 着用目的に合った繊維素材を選択することができる。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維①綿 第3回：天然繊維 植物繊維②麻、他 第4回：天然繊維 動物繊維①絹 第5回：天然繊維 動物繊維②羊毛、獣毛 第6回：皮革、その他の天然繊維 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュプラ・アセテート 第9回：化学繊維 合成繊維①ナイロン、アクリル 第10回：化学繊維 合成繊維②ポリエステル 第11回：化学繊維 合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第12回：化学繊維 無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維、高機能繊維 他 第13回：まとめと期末試験 第14回：試験の復習と最終課題、学外研修の事前学習 第15回：学外研修、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、DVD、学外研修（兵庫県立生活科学センター※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）試験は中間と期末の2回おこなう。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	ファッション流通論						
担当教員	白坂 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッショントレンドを生み出す流通システムを学ぶ						
授業の概要	ファッションには「トレンド（流行）」があり、毎シーズンさまざまなトレンドが生まれては消えていく。このトレンドはどのように生まれてくるのだろうか。私たちが「今シーズンのトレンド」として受け取っているものの大半は、仕組みられた流通システムによって生み出されており、アパレル業界側が意図して仕掛けているのである。本講義ではアパレル流通の基礎知識を学び、トレンドを生み出すシステムを理解する。また、さまざまな時代や国のトレンドについても学び、ファッショントレンドがどのように変化してきたかを学ぶ。						
到達目標	ファッション流通の基礎知識とトレンドを生み出すシステムを学び、ファッショントレンドの変遷についても理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ファッショントレンドについて 第3回 ファッションビジネスの定義と特性 第4回 ファッションビジネスの変遷 第5回 ファッション産業の流通のしくみ 第6回 ファッション情報の収集と分析 第7回 西洋のファッショントレンドの変遷①古代エジプト時代 第8回 西洋のファッショントレンドの変遷②ルネサンス時代 第9回 西洋のファッショントレンドの変遷③ロココ時代 第10回 日本のファッショントレンドの変遷④平安時代 第11回 日本のファッショントレンドの変遷⑤江戸時代 第12回 学外見学 第13回 トレンドマップ作成 第14回 トレンドマップ作成 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：今シーズンのトレンドについて自分なりに調べ考察しておくこと。 授業後学習：理解できなかった内容は授業後または次回質問し、欠席したり授業内にできなかった課題は各自進めておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験50% 課題30% 授業態度20%						
教科書	文化ファッション大系 ファッション流通講座①『ファッションビジネス流通編基礎』文化服装学院編						
参考書	授業内に紹介します						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物のおいしさについての基礎的な知識を持ち、食べる人がこの食に対して何を求めているのかの要望を察知してコーディネートすることを考える！（フードスペシャリストの資格試験科目）						
授業の概要	<p>食に関する様々な場において複雑な状況を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することがフードコーディネートには求められている。その活動範囲は、家での食卓だけでなくレストランや食品を販売するスーパーやデパ地下、食に関する情報を発信するイベントやテレビ、広告などの企画、また知識や技術を伝達する食育、さらには店舗経営など極めて広い。</p> <p>食に関する場面において満足できる状態を演出するということは、「美味しいものを食べる」だけでなく、「美味しいものを美味しく食べる」あるいは「美味しいものを美味しく食べさせる」ことであり、食物自体の美味しさに加えて食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などが関わる総合的な場面を構築することである。</p> <p>そこで本講義では、世界無形文化遺産に登録された和食をはじめ、イタリアンや中国料理など世界各国の食生活や食文化を学び、昔の経験に基づいて築かれた伝統技術（例えば包丁の扱い方やテーブルマナー）や知識の理解を深め、食生活の楽しさを演出できる工夫を考える。</p> <p>さらに昨今大きな課題である食育、食の安全性について現状を理解するとともに、なぜこのような問題が生じたのかを考えていく。</p>						
到達目標	<p>①食には幅広い役割（体をつくる役割、コミュニケーションを育むための場、教育の場、楽しむ場、その他）があることを理解し、実践出来るようになる。</p> <p>②食教育で利用できる楽しい教材を考えることができる。</p> <p>③楽しい食空間を演出できるようコーディネート力をつける。</p>						
授業計画	<p>第1回 フードコーディネートの基本理念</p> <p>第2回 食事の文化（日本の食事の歴史）</p> <p>第3回 食事の文化（外国の食事）</p> <p>第4回 食卓のコーディネート</p> <p>第5回 食卓のサービスとマナー（日本料理のサービスとマナー）</p> <p>第6回 食卓のサービスとマナー（中国料理・西洋料理・その他のサービスとマナー）</p> <p>第7回 メニュープランニングの要件</p> <p>第8回 食空間のコーディネート（理論）</p> <p>第9回 食空間のコーディネート（実践）</p> <p>第10回 フードサービスマネジメント（マネジメントの基本と起業する意義）</p> <p>第11回 フードサービスマネジメント（投資計画の作成・収支計画の作成・売上）</p> <p>第12回 食企画の実践コーディネート（食企画の流れ）</p> <p>第13回 食企画の実践コーディネート（食企画に必要な基礎スキルと実践現場の現状）</p> <p>第14回 食育の現状問題と課題</p> <p>第15回 フードコーディネートの今後の課題とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：授業計画に従って、教科書の必要な箇所を読んでおくこと。また、食に関する資料を集めておくこと。</p> <p>授業後：復習をし、要点をまとめておくこと。</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>場合によって実習などを取り入れることがある</p>						
評価基準と評価方法	レポート（2回）20%、小テスト20%（1回）、期末テスト60%						
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「三訂 フードコーディネート論」ISBN:978-4-7679-0440-5						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期 前半	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	フードスペシャリストになるための幅広い食の知識を学ぶ。（フードスペシャリスト資格試験科目）						
授業の概要	消費者嗜好の多様化、それによる生活習慣病の増加、食品加工や保存管理など食流通への不安など食生活の見直しが幅広い領域で行われている今こそ、栄養士（管理栄養士）とは違う高度な食品・食物に関する専門知識を必要とする。将来、食教育の活動を推進できる専門的な食の知識を身につけることを目指す。 本講では、食品の開発検査、官能評価・鑑別、顧客に対する情報提供・販売促進、快適な食事コーディネート、食育活動など推進できる専門職の育成を目指す。						
到達目標	①フードスペシャリスト試験を目指すことができる ②食の幅広い専門知識を理解し、食の特徴を説明することができる。 ③食問題を批判的に捉える事ができる。 ④フードスペシャリスト資格試験対策ができる。						
授業計画	第1回：フードスペシャリスト論の定義と役割（青谷） 第2回：フードスペシャリストと食教育の課題（青谷） 第3回：食品の官能評価（武智） 第4回：食品の鑑別論（武智） 第5回：食物学①植物性食品（武智） 第6回：食物学②動物性食品（武智） 第7回：食品の安全性①食品衛生（武智） 第8回：食品の安全性②流通、法規（武智） 第9回：調理学①操作、器具など（武智） 第10回：調理学②食品素材（武智） 第11回：栄養と健康（武智） 第12回：食品の流通（青谷） 第13回：食品の消費（青谷） 第14回：フードコーディネート論（青谷） 第15回：フードコーディネート論と総まとめ（青谷）						
授業外における学習（準備学習の内容）	食の情報を常に集めておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%（確認テストや課題の取り組み）、小テスト20%、期末テスト60%						
教科書	プリント配布						
参考書	随時、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	保育・看護学（実習を含む）						
担当教員	寺村 ゆかの						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの理解と家庭的保育						
授業の概要	はじめに、胎児期から乳幼児期の子どもの身体の成長発達ならびに、運動・認知・情緒などの発達について概説し、社会性の発達などにとって極めて重要な乳幼児期の対人関係のあり方の意味を検討する。また、乳幼児の健康（病気と看護、予防接種等）、事故防止や安全管理の重要性を説明する。さらに、保育をめぐる現状と課題（マルトリートメント、ひとり親家庭や貧困家庭、産後うつや育児不安、待機児童、発達障害等）を家庭での保育（養育）・保育サービス・地域子育て支援という視点から議論する。 また、ゲストスピーカーを招く回では、赤ちゃんふれあい体験（乳児と母親との交流）を通して、乳幼児期にある子どもの観察と現代の子育てについて実践的に学ぶ。						
到達目標	1. 子どもの成長・発達の基本を理解するとともに、子育てに必要な知識と態度を身につけることができる 2. 現代社会における子育て支援の現状と課題を知り、それらについての自分の意見を表明することができる						
授業計画	1. 授業のオリエンテーション／保育とは何か 2. 成長と発達 3. 妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達 4. 新生児・乳児期の心身の成長・発達 5. 幼児期の心身の成長・発達 6. 乳幼児期の人間関係の発達 7. 乳幼児の健康①（かかりやすい病気と予防接種） 8. 乳幼児の健康②（家庭での看護） 9. 乳幼児期に起こりやすい事故とその予防 10. 家庭保育の現状と課題 11. 保育サービス・地域の子育て支援の現状と課題 12. 子どもへの接し方・関わり方 13. 赤ちゃんふれあい体験学習「ゲスト・スピーカー招聘予定」 14. 赤ちゃんふれあい体験学習の振り返り 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の講義の最後に、次回の講義内容に関する「キーワード」を提示するので、それについて次回の授業までに自己学習しておく。授業ではそのキーワードについての質問を適宜おこない、皆さんの意見等を求めるので、答えられるように準備しておく。						
授業方法	講義が中心であるが、赤ちゃんふれあい体験学習もおこなう予定。						
評価基準と評価方法	毎回（1回～14回）の授業中に作成するミニレポート（70%）と赤ちゃんふれあい体験学習レポート（30%）。						
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						